

當省へ可差出此旨相達候事

明治八年九月廿五日

第五百五十七號

明治八年十一月十二日

陸軍省達

別紙陸軍武官休暇規則布達精成候條區戸長取扱方ハ勿論軍人歸郷中不都合無之様條件ニ基キ厚ク注意可致事

陸軍武官休暇規則別冊之通相定候此旨相達候事

但従前之規則此ト矛盾スルモノ廢止ニ屬シ候儀ト可相定得事

明治八年十月十五日

陸軍武官休暇規則

第一條 凡將校及ヒ下士兵卒並ニ會計軍醫馬醫軍樂各部右同等ノ輩ハ歸省或ハ湯治或ハ已ムヲ得サル事故有ル者歸郷等ノ爲メ休

暇ヲ要スル時ハ此規則ニ照準シテ請願スル事ヲ得ヘシ

第二條 準士官以上及ヒ右同等ノ輩ハ本人ノ請願ニ由リ四週日以内ノ休暇ヲ許スヘシ若シ休暇中疾病或ハ已ムヲ得サル事故ニ罹リ延期ヲ要スルトキハ其次第疾病ナレハ軍醫軍醫不在ナレハ地方病院若シハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ具狀シテ延期ヲ請フヘシ
第三條 其休暇ノ願書歸省ハ親族ノ信書湯治ハ軍醫ハ地方醫師ノ診斷書ヲ相添フヘシ事故有ル者ハ其事故ヲ詳細願書ニ記載スル者トス

第四條 將官及ヒ右同等諸官ノ休暇願ハ正院へ上申シ上長官士官準士官並ニ右同等諸官ノ休暇願ハ其所管ノ長官之ヲ許可スヘシ但本省出仕ノ上長官士官準士官ハ一日ハ其局長一週日以内ハ第一局長之ヲ許シ八日以外ハ陸軍卿ニ上申スヘシ
第五條 然レモ各所管ノ長官若シハ長官缺員或ハ不在ノ時長官ノ

代理タル上長官若クハ士官ハ凡テ陸軍卿ニ上申シ許可ヲ請フヘシ

第六條 凡下士兵卒及ヒ同等ノ輩ハ常ニ休暇ヲ許サスト雖モ父(母)病氣或ハ死亡等ニテ歸省ヲ願フ時ハ其情實ニヨリ下士ハ三週日以内兵卒ハ二週日以内ノ休暇ヲ許スヘシ故ニ右等ノ事故ニテ休暇ヲ願フ時ハ其親族ニ於テ願書ヲ作り(病氣ナレハ醫師ノ診断書ヲ添フヘシ)其地方區長(戶長)ニ差出ストキハ區長(戶長)其事實ヲ取糺シ相違ナキニ於テハ與書調印ノ上所轄ノ府(縣)廳ニ差出シ府(縣)廳又與書調印ノ上近衛(鎮臺)(營所)(局)等總テ本人所管ノ廳ニ差出スヘシ其手續ハ府(縣)廳若クハ願人ヨリ直ニ差出スモ適宜タルヘシ

第七條 其下士以下諸隊ニ於テハ病狀ニ依リ軍醫ノ意見ヲ以テ湯治ヲ命スルコト有リ因テ本人ヨリ決シテ請願スルヲ許サス其隊外

ニ在テハ時トシ之ヲ許可スヘシ然ルモ必ス軍醫ハ地方醫師ノ診断書ヲ以テ本人ヨリ之ヲ請願スルヲ得ル者トス

第八條 其休暇ヲ許可スルノ權限ハ諸兵隊ハ各自ノ内務書中ニ記載スルヲ以テ爰ニ揭ケス其隊外ハ一切各所管ノ長官之ヲ許可スヘシ然レモ本省各局出仕ノ者ハ其局長ヨリ第一局長ニ申告シテ許可ヲ得ル者トス

第九條 其休暇ノ免許ヲ與フル時ハ左式ノ免許狀並宿泊證書ヲ渡スヘシ

<p>近衛(鎧臺)歩兵何聯隊第何大隊第何中隊 或砲工聯隊重兵第何大隊(第何小隊) 官或兵卒 姓 名</p> <p>兩ハ本省諸局其他砲工等方補請ハ諸署 候等ニ奉仕ノ者ハ何局何方面何校附官 或ハ何々 姓 名</p>	
<p>何日間休暇免許</p> <p>或ハ</p> <p>聯隊或大隊之印</p> <p>聯隊或大隊之印</p>	
<p>此免狀ハ何年何月何日ヨリ何年何月何日 迄ノ休暇ナレハ其期限ニ至レハ必ス歸著 スヘシ休暇中ト雖モ陸軍ノ法令ヲ遵奉シ 且其地方ノ命令ニ服従スヘシ表書(兵卒) 所持金若干アリ又其所持ノ品左ノ如シ</p> <p>.....一.....二.....</p>	
<p>此下士(兵卒)右之通金子並諸品ヲ所持ス レハ其往來途中ニ於テ他人ノ扶助ヲ受ル コナカルヘシ</p> <p>中隊長(小隊長)或ハ 何局(何校)第何課長 年号月日 官 姓名</p>	

<p>宿泊證書</p> <p>近衛(鎧臺)歩兵何聯隊第何大隊第何中隊或砲工聯 隊重兵何大隊(第何小隊) 官或兵卒 姓 名 或ハ本省諸局其他砲工等方補請ハ諸署 ノ者ハ何局何方面何校附官或ハ何々 姓 名</p>	
<p>年號月日發程</p> <p>往</p> <p>何月何日何地某方ニ宿 何府縣第何大區何小區 區長(戸長) 誰 印</p> <p>何日ヨリ何日迄病氣或ハ 何ニ依テ滞在 右同斷 誰 印</p> <p>何月何日何地乘船 何月何日何地地上陸 何船長 誰 印</p>	<p>年號月日發程</p> <p>還</p> <p>書法上ニ全シ</p>

第十條 免許狀ハ厚紙ヲ以テ之ヲ製シ年月日姓名及ヒ番號等ヲ省
キ豫メ印刷シオキ入用ノ時々之ヲ書キ加フヘシ

第十一條 宿泊證書ハ事柄ヲ記載シ或ハ署名調印ニ其兩面ヲ用ユ
ル爲メ厚紙ヲ以テ之ヲ製シ若シ足ラサルキハ別紙ヲ以テ之ヲ補
接セシムヘシ然ルモハ其補接シタル所ニ於テ區長〔戶長〔船長〕ノ
調印ヲ受ケ置ク者トス

第十二條 宿泊證書ハ往返三泊以上ニ至ラサル者ニハ之ヲ與フル
コトナシ

第十三條 總テ休暇ノ免許ヲ受ケタル下士以下ノ者ハ免許狀及ヒ
宿泊證書ヲ所持シ畧服及ヒ脚絆ヲ着シ〔脚絆ヲ着スルト若シモサル
トハ兵種ニヨルヘシ〕帶革並ニ銃劍或ハ軍刀ヲ佩ヒ且外套ヲモ所
持スヘシ

第十四條 要塞ノ土地ニ到リ郭門ニ哨兵有時ハ哨兵ニ誘レ先ツ主

衛兵舍ニ至リ而シテ要塞副官ニ免許狀及ヒ宿泊證書ヲ呈シ檢査
ヲ受クヘシ若シ哨兵有ラサル時ハ自カラ其司令官又ハ副官ノ所
在ニ就キ之ヲ呈スヘシ要塞ナキ地ニ宿泊スルモハ所在ノ區長〔戶
長〕ニ免許狀ヲ示シ猶宿泊證書ニ調印ヲ乞フヘシ區長〔戶長〔船長〕ハ
之ヲ一閱シ其都合ノ廉無之キハ故障ナク雛形書式之通月日地名
等記載シ之ニ調印スヘシ若シ海路通行ノ節ハ其免許狀及ヒ宿泊
證書ヲ船長ニ示スカ故ニ船長ニ於テ何月何日乗船何月何日某ノ
地ニ碇泊或ハ著直ナニ上陸云々別細ニ宿泊證書ニ記載シ之レニ
調印スヘシ若シ其途中發病川岡等ニテ逗留スル時ハ其事由ヲ記
載シ病氣ノ節ハ醫師ノ診斷書ヲ取置キ歸着ノ上之ヲ其所管ニ差
出スヘシ

第十五條 其免許ヲ得テ旅行スルモハ某ノ地ヨリ某ノ地マテ海路
若シハ陸路通行ノ旨出發ノ前ニ於テ之ヲ定メ宿泊證書ニ記載シ

置ク者ナレハ區長〔戸長〕〔船長〕ニ於テ右證書一閱ノ節順道等證書ト相違有ルキハ其仔細ヲ聞糺シ又之ヲ證書ニ記入シテ調印スヘシ

第十六條 途中ニ於テ川支又ハ病氣等ニテ止テ得ス數日滯留シ夫レヲ爲メ旅費欠乏諸支拂等相成リ難キ節ハ其次第該驛村ノ區長〔戸長〕ニ談スヘシ區長〔戸長〕ハ爲ト情實ヲ取糺シ相違無之ニ於テハ藥代旅籠料ヲ支拂ヒ其事由並金員等明細ニ宿泊證書ヘ記載シ尙ホ其趣ヲ所轄ノ府〔縣〕廳ヘ申告シ廳ヨリ其取扱ヲ受ケタル本人ノ所管廳ヘ申出ヘシ該廳ハ宿泊證書ト照會清算シ之ヲ其府〔縣〕廳ヘ辨償スル者トス

第十七條 休暇ノモノ已ニ歸郷スレハ直ニ其地ノ區長〔戸長〕ニ免許狀及ヒ宿泊證書ヲ出シ調印ヲ受ケ其免許狀ハ期日マテ區長〔戸長〕ノ内ニ預ケ置キ而シテ地方ノ掟及ヒ軍人ノ至ル間敷家屋等ヲ承知スヘシ若シ法則ヲ犯スルハ地方官ニ於テ之ヲ捕縛シ其地方管

轄鎮臺或ハ營所ヘ送致スル者トス

第十八條 已ニ出發ノ期ニ至レハ區長〔戸長〕ヨリ前キニ預ケ置キタル免許狀ヲ受取り且其發途ヲ証スル爲メ其趣ヲ宿泊證書ニ記注調印ヲ乞フヘシ歸省中父〔母〕病死スレハ直ニソノ所管ニ歸リソノ旨趣ヲ申告シ若シソノ家事等ニ見捨テ難キ件アレハ再ヒ請願シ更ニ休暇ノ免許ヲ受ケルヲ法トス

第十九條 歸郷中本人病氣ニテ期日ニ出發ナシ難キ時ハ本人ノ願書ニ軍醫〔軍醫〕不在ナレハ地方ノ診斷書ヲ添ヘ區長〔戸長〕ニ差出ス時ハ區長〔戸長〕ソノ事實ヲ取糺シ相違無キニ於テハ與書調印ノ上所轄ノ府〔縣〕廳ヘ差出シ府〔縣〕廳又與書調印ノ上本人ノ所管ヘ送致スヘシ其手續ハ第六條ニ示スガ如シ

第二十條 凡ソ將校及ヒ下士兵卒並同等ノ輩休暇ノ免許ヲ得テ歸省或ハ湯治等ヲ爲ス時其往復ノ日數ハ休暇ノ日數ニ算入セサル

ヲ以テ往返共海路陸路トナシ成ルヘキ丈ケ日數ヲ費サ、ル檢注
意スヘシ

第二十二條 陸軍武官ハ前條ノ規則ニ適當ノ者ハ願ノ上休暇ヲ許
スト雖モ有事ノ際ハ勿論平常ト雖モ其廳ノ事務或ハ其隊ノ都合
ニヨリ時トシテ休暇ヲ許サ、ル事之レ有ルヘシ

第二十二條 陸軍省並ニ所屬各官廳出仕ノ文官モ武官ト同シク此
規則ヲ遵守セシム然ルモ其休暇ノ定則奏任官以上ハ將校判任
官ハ下士等外吏ハ卒ニ準ス

第二十三條 然レモ文官判任官及ヒ等外吏ノ休暇ハ免許狀及ヒ宿
泊證書ヲ與フルヲ無ク又服裝及ヒ携帶品ノ定メ有ルヲナシ

第百六十四號 明治八年十一月廿三日

徵兵令參考別冊之通改訂候旨陸軍省ヨリ被達候條管内無洩觸示者
也

明治八年十一月發行

訂改 徵 兵 令 參 考

徵兵ノ法タル専ラ陸軍ニ屬スト雖又民政ノ一部タルヲ以テ地方官ノ任亦其重キニ居ル夫地ニ生シ官ニ收ムル者之ヲ租稅ト云フ地方官實ニ之ヲ掌ル是故ニ租稅ノ納ラサル責ヲ地方官ニ任ス今地方官ニ任スルノ民ヲ以國ヲ護スルノ兵トナス然ラハ則兵ノ未熟ナル陸軍ニ於テ其責固ヨリ敢辭セサル所ナリ抑徵兵ハ未全ク兵トナラサルノ稱ニシテ兵トナルヘキ者ヲ貢スルノ謂ヒナリ而兵ハ骨格體質ヲ擇フヲ主トス此強兵ノ基ク所ニシテ實ニ護國ノ基本陸軍ノ本務ナリ是故ニ徵兵使アリ軍醫アリ以丁壯ヲ檢査ス今其檢査ニ當タル者ハ則地方所轄ノ民タレハ未全ク兵タルヲ得サル者ニシテ猶租稅ト異ルナシ故ニ云フ地方官ノ任其重ニ居ルト明治五年勅意ヲ以テ普ク徵兵令ヲ布シ然レモ其法極メテ簡易唯ニ其要領ヲ舉ル而已故ニ支務末事ニ至リテハ往々地方ノ疑フ所トナリ諮問往復徒ラニ時日ヲ費ヤス是ニ於テ今本令ヲ說解シ一部トナシ以地方ニ分與シ又

其關ヲ増補シ遂ニ徵兵ノ事ヲシテ 上意ニ適セシメノ事ヲ要ス

明治七年十二月
同八年十月 改訂

第一條 本令第二章第一條ニ示シタル徵兵器ハ府縣廳所在ノ地ヲ以相當ノ場所トナスト雖管内中央集合便宜ノ地ニ設クルヲ最好シトス其一部ノ檢査場ハ丁壯ヲシテ暫時裸體ナラシメ眼色耳孔ヨリ全體ヲ檢査シ遂ニ四支ノ運動ニ及ホスヲ以官舎或ハ社寺等ノ家屋與行八九間間口五六間以上成丈明カナル温室ヲ要ス又本令第四章第七條ノ例ヲ踐ミ區邑ヲ巡廻シ檢査スルヲ以豫管内集合最寄ノ地ヲ各所ニ見立本年徵兵多寡ニ應シ大凡一所二百人トシ或ハ二ヶ所或ハ三ヶ所其宜キヲ計リ前ニ示ス如キ檢査場ヲ確定シ例年徵兵進名簿進達同時ニ右徵兵器並ニ各所檢査場及ヒ各所徵員且應下ヨリ各所檢査場ヘノ里程等詳細ニ申出ツヘシ

但巡廻検査ハ徴兵署隔遠ノ者ヲシテ往復ノ費用ヲ省カシメ
爲ニスルヲ以検査場ヲ四五ヶ所ニ設ケ或ハ管内ノ總員ヲシテ
悉ク徴兵署ニ集合セシムルモ實地ノ適宜ニ任ス

第二條 本令第一章第六條ニ示シタル徴兵議員ニ區長戸長ヲ以任
スル者ハ民間苦情ノ上仰シ易キ爲ナリ且其議員ハ全ク本年丁壯
ノ總代ニシテ丁壯中事故有リ一家生計ニ係ル等ノ苦情有ルハ
敢テ壯ニ代ツテ建議スルヲ職トス是故ニ區長戸長ニ限ラズ鄉村
中ノ人望有ル者ヲ以スルモ妨ケナシ又丁壯ヲ郡或ハ區括リニシ
テ議員ニ配賦スヘシ假令ハ甲郡區ノ丁壯ハ何某議員ニ總括シ乙
郡區ノ丁壯ハ何某議員ニ總括スト云フカ如シ復議員ノ數ハ検査
スル所ノ區數ニ倍スル者ハ前條ニ示シタル各所検査場毎ニ約議
員二人宛ヲ要スルノ謂ヒナリ最検査場ヲ合併スルハ相當ノ議
員ヲ加フヘシ備置筆生ノ員數モ亦之ニ同シ

第三條 本令第二章第一條ニ示ス如ク毎年二月十五日ヨリ徴兵使
發行シ四月十日迄ニ復命スルヲ定例トス是故ニソノ時間ハ豫本
年徴兵連名簿ニ記載ノ内他所ニ寄留シ呼返スヘキ者ハ勿論舟業
商用ソノ他出稼等ノ者迄遺漏ナク呼返シ家住致サセ検査呼集ニ
不都合ナキニ緊要トス

第四條 徴兵ノ身幹ハ五尺以上ノ定則ト雖土地人種ニ由リ定尺ニ
當ル者十カーヲ得ル能ハス就中歩兵ノ定員ハ他兵ニ十倍ス故ニ
歩兵ニ限リ四尺九寸以上ヲ採用スルモ時宜ニ因ルヘシ

第五條 本年ノ徴兵抽籤ノ列ニ入り常備役志願ニテ補充或ハ落籤
等ヲ患フル者ハソノ親或ハ兄叔伯總ヘテ戸主タル者會得ニテ戸
長証印ノ上ハ抽籤以前ニ常備番號以內ノ籤ヲ抽カシム

第六條 本年ノ徴兵各自抽籤ノ上便宜ヲ以籤番號ノ互換ヲ願出ツ
ルモノハ同府縣内ノ親族間ヲ限リ互ノ親或ハ兄叔伯總ヘテ戸主

タルモノ會得ニテ雙方戸長証印ノ上ハ詮議ニ及フヘシ最徴兵器
解散ノ後ハ此限ニ非ス

第七條 本令第五章中ニ示シタル徴兵ノ抽籤ハ一府縣内合格ノ丁
壯ヲ徴兵器ニ集合シ各個各自ニ抽カシム可シト雖各所検査合格
ノ丁壯ヲ再ヒ徴兵器ニ集合セハ或ハ滞在等ノ費用少カラサルヲ
以検査合格ノモノハ同時讀文算術ヲ試ミ歸家ヲ許シ抽籤ハ各丁
總代議員ヲ以代抽セシメ其番號ニ應シ割符ヲ其議員ニ附シ各丁
ニ傳與セシムルモ時宜ニ由ルヘシ
但時宜ニ由リ代抽傳與ニ決スル時ト雖自抽籤ヲ欲スルモノハ
其望ニ任ズヘシ

第八條 本令第六章第十五條ニ示シタル代人料ヲ納レ免役願出ツ
ル者ハ検査ノ上合格ノ者耳償金ヲ出サシム其金額ノ如キハ兵卒
三ヶ年間給與スル衣食物器ノ雜費ヲ計算スル者ニシテ例外ノ法

トナス是故ニ代人料ヲ納ムル者幾人有ルト其府縣徴兵ノ定員ヲ
減セス
但免役ヲ願フ者多クシテ徴募スヘキ人員ニ不足ヲ生スルハ
臨時ノ詮議ニ及フヘシ

第九條 本令第二章第四條ニ應シ徴兵連名簿ニ記載ノ者止ムヲ得
サル苦情有テ戸長ヨリ詳細書ヲ以免役ヲ申立ツルト雖検査以前
ニ非サレハ決シテ詮議ニ及ハス

第十條 本令第六章第一條ニ照準シ常備新兵ヲ入營セシムル時ハ
府縣内最寄チ分チ一群或ハ二群トナシ戸長之ヲ引纏メ入營セシ
ムヘシ尤豫到着日限ヲ其鎮臺或ハ營所ヘ報知シ到着ノ上ハ即刻
届出ツヘシ

但到着日限ヲ期シ難キ島嶼等ノ如キハ時機ノ扱ヒヲナスコ必
シモ此限ニ非ス

第十一條 常備新兵入營ノ期ニ至リ病氣又ハ他ノ事故ニテ期限通
 リ入營シ難キモノハ醫師ノ診斷書或ハ事故ニ關スル者ノ證書ニ
 區長及ヒ戸長ノ與書證印ヲ以管廳ヲ經テ其鎮臺ヘ届出ツヘシ快
 氣或ハ其事故既濟ノ上ハ即日從前ノ手順ヲ以届出ツヘキハ勿論
 入營期限初日ヨリ算シ往キ卅日ニ至リ入營シ難キ者ハ前件ノ通
 届出テ其翌日ヨリ復三十日ニ至リ尙入營シ難ク前件同様届出ツ
 ル者ハ翌年徵兵ニ廻スヘシ

第十二條 常備新兵入營以前逃亡或ハ他ノ犯罪等ノ者ハ素ヨリ軍
 律ヲ以處置セサルヘシ若搜索又裁判中ノ者ハ前條入營延期ノ者
 同様ニ時々届出ツヘシ

第十三條 常備新兵入營ノ期ニ臨ミ父母ノ重病或ハ死没等止ムナ
 得サル事故出來入營延期ヲ願フ者ハ其親或ハ親族ノ者ヨリ管廳
 ノ與書證印ヲ以其鎮臺ヘ願出ツルニ於テハ本令第六章第七條ニ

準シ詮議ニ及フヘシ

第十四條 本年常備補充ノ命ヲ蒙リ入營以前若過テ陸軍ノ符號
 割符ヲ損傷遺失スル者ハ速ニ管廳ヘ届出テ管廳ニ於テハ直ニ地
 方裁判所ニ附シ亦其由ヲ鎮臺ヘ届置裁判既濟之上再ヒ斷接ヲ以
 鎮臺ヘ届出テソノ指揮ニ應スヘシ尤途中或ハ營所外滯在中ニア
 ルキハ附添區長或ハ戸長ヨリ其旨鎮臺或ハソノ營所ヘ届出ツヘ
 シ

第十五條 本令第六章第七條ニ準シ常備服役中ノ者若シ非常ノ事
 故ニテ止ムヲ得サルトキ師省ヲ願フモノハ詮議ニ及フヘシト雖
 モ入營後六ヶ月未滿成業ニ至ラス或ハ實地演習又ハ臨時觀兵ノ
 舉有ルキハ此限ニ非ス

第十六條 補充兵ハ常備ノ補欠兵タルヲ以何時モ入營ノ覺悟有ル
 ヘシ固ヨリ自己ノ管内ヲ出ルヲ禁スト雖止ムヲ得サル事故出來

管地ヲ出テシテ欲スルトハソノ事實並ヒニ往ク所ノ國郡村名
及ヒ往返日數等ヲ記シ置キ十日以内ハソノ管廳ニ於テ許可スヘ
シ

第十七條 本令第六章第十三條ニ示シタル毎年十二月二十五日限
リ本省へ送達ノ徵兵連名簿ハ府縣款名ノ簿紙ニ第一式ノ如ク認
メ年齢計算ハ第二式表面ニ揭示シタル前年二月十六日始メテ滿
十九歳トナル者ヨリ本年二月十五日迄ニ滿十九歳トナル者迄取
調シヘク即翌二月十五日滿二十歳以上二十一歳未滿ヲ以徵募ニ
付クヘキ者トス最免役ニ適スル者ハ第三式ノ簿紙ニ認メ用紙ハ
美濃或ハ海業ニテモ府縣ノ便宜ニ應ス摺ヘテ認メ方ハ一大區或
ハ一郡括リニ合計ヲ舉ケ遂ニ一府縣ニ總計シ連名順序ハ他村町
ノ者ト混雜セサルヲ要ス假令ハ甲村ノ成丁ヲ書シ終ルノ後乙村
へ移スノ類ニシテ一村毎ニ餘白ヲ存スルニ及ハス尙朱字ヲ以繼

形野紙ニ認メ方ヲ示ス

第一式

徵兵連名簿雛形

第一大區或何郡

一小區何村

族職業

親名何男或兄叔伯名弟甥又厄介
誕生年月日 何 某

全 同

同

同

全

以下准之

合計幾人

第三式 免役連名簿雛形

姓名	住所	戸主	誕生	族職業	徵兵令第三章中ノケ條ニ當ル者
何某	何小區何町何丁目 何番地	何某	年月日	何族	矮小賤癩瘰癧
同	何小區何村何番地	同人	同	農	官省府縣何官 奉職何等出仕
				工	陸海軍 生徒
				商	工學礦學 文部等ノ 專門生徒

免役連名簿 何府縣

住所	姓名	戸主	誕生	族職業	徵兵令第三章中ノケ條ニ當ル者
				僧	
				雜業	嗣子或ハ承祖ノ孫
				舟夫	獨子或ハ獨孫
					徵役ケ年以上ノ 刑ヲ蒙リタル者

誕生	族職業	徵兵令第三 章中ノケ條 ニ當ル者	姓名	住所	戸主	誕生	族職業	徵兵令第三 章中ノケ條 ニ當ル者
		洋行修業發 年月寄留地						
		父兄ニ代リ家ヲ 治ムル者						
		光緒二十九年 近衛 鎮臺 何兵在役						

五百五十九

第十八條 本令第三章第一條ニ當タル者ハ府縣毎ニ豫丁壯ノ身幹
ヲ尺度シ四尺九寸未滿ノモノハ免役簿ニ載セ第二條ニ當タルモ
ノハ其取捨分明ナラサルヲ以顯然タリ矮小眇塞聾啞或ハ宿病不
具等ノモノノニ免役簿ニ載セ右孰モ徵集スヘカラス
但宿病ノモノト雖判然家業等營ニ難キモノニ非サレハ此限ニ
非ス

第十九條 本令同章第三條ノ官省使廳府縣ニ奉職スルモノト雖顯
然ナル等外四等迄ニ非サレハ假令給仕用使或ハ事務繁劇ニ付キ
一時雇入シモノト雖總ヘテ免役ニ屬ス可カラス尤御用掛御雇等
ノ名義ニテモ餘人ヲ以換フヘカラザル事務ヲ奉スルモノ等ノ如
キハ特ニ正院ニ上伸シテ裁決ヲ乞フヘシ

第二十條 本令同章第五條ニ示シタル文部ノ生徒ハ外國語學校教
則下等語學ノ教科ヲ卒業シタル以上並ニ師範學校修業ノモノ又ハ

五百五十九

師範學校ノ證書ヲ得タルモノノ他專門學修業ノ者ハ免役ニ屬スヘキハ勿論省使ノ他私學ヲリモ政府許可ノ教員及ヒ私雇外國人ニ隨學ノ者ハ都ヘテ文部省定メ外國語學校教則下等語學卒業生徒並ヒニ專門學修業生徒相當ノ者及ヒ中學教科ヲ卒ハルモノハ免役ニ屬スヘシ因ツテ本令第六章第十三條ノ例ヲ履ニ徵兵連名簿調ノ時各自證書ヲ出サシムヘシ

但即今文部ノ學則ヲ以比シ難キ土地柄或ハ國學其他學則未定ノ馬醫術等ノ如キ判然分界ヲ付ケ難キ者ハ總ヘテ徵兵連名簿ニ載セ徵兵署開設ノ時各自其修業履歷並ニ教師ノ證書ヲ以本令第二章第四條ノ例ニ準シ申立ツヘシ

第二十一條 諸省使雇入外國人ニ附屬シ官費ヲ以技藝傳習中ノ者ハ第二十條ノ例ニ準シ免役ニ屬スヘシ

第二十二條 本令第三章第七條ニ示シタル嫡子嫡孫ニ當テリタル

者ト雖兄弟アリ祖父或ハ其父未嗣子或ハ承祖ノ孫ト認メサルハ兵役ニ就クヘシ

第二十三條 二三男ニツ子ナルトキハ檢査ノ上合格ノ者ヲ採用ス若二八共ニ合格スルキハ抽籤以前親ノ望ミニ任セ一人ヲ免スヘシ

第二十四條 兄弟ノ中陸海軍在役ノ者アレハ本人免役ハ勿論ナレ其兄弟若壯兵ニテ在役スルキハ之ヲ免サス

第二十五條 本令第三章常備兵免役概則ハ檢査前ノ規則ニノ入營後ノ法ニ非ス是故ニ服役中ハ其ケ條ニ該ル事故出來スト雖一切之ヲ許サス然レ現今兄或ハ家繼タルヘキ者死シ又ハ不療ノ疾ニ罹リ或ハ兩親又ハ祖父母老羸且貧窮ニシテ他ニ依ルヘキ子ナク或ハ幼稚ニシテ在役中ノ者ヲ要スルニ非ザレハ活計ノ路ナキ等止ムヲ得ザル故障出來ノ者ハ戸長並ニ親族ノ證書ニ符應ノ與書

証印ヲ以鑲臺へ願出ツルヲイテハ詮議ノ上現役ヲ免スト雖入營後六ヶ月ヲ經生兵卒業ノ者ハ其服役年限中ハ後備軍ノ籍ニ編入スヘシ

第廿六條 本年徵兵連名簿進達期限乃毎年十二月廿五日ヨリ翌年四月二十日迄ノ間ハ養子分家或ハ嗣子相続人等ノ出願ハ免役ノ爲詐僞ニ出ツルニ嫌アルヲ以右日限内ハ格別精密ニ取糺シ事實明瞭止ムヲ得ザル者ノ外ハ濫リニ許可相成ラス

但檢査ノ節病氣事故等ニテ不參又ハ入營延期ニテ翌年ノ徵兵ニ廻スヘキ者ハ則其時ヨリ翌年入營期限迄ニ養子分家等ヲ以免役願出ツル兵役ニ於テハ一切之ヲ許サス

第二十七條 本年徵兵連名簿記載ニ當タルモノノ内他府縣へ寄留ノモノハ本令第六章第十三條ニ照準シ其所置ニ及フヘキハ無論其戶主タル者他府縣へ寄留シ其子弟及ヒ厄介タル者ハ本令同章第十

第十四條ニ準スヘキト雖其本貫ヨリモ錄行無テ取糺シ本簿ノ未ニ付シ其由ヲ記スヘシ

但北海道へ全戸寄留スル者ハ免役ニ屬シ北海道ヨリ各府縣へ全戸寄留スル者ハ府縣一般ノ人民ト同ク兵役ヲ帶ハシムヘシ

第二十八條 本令第六章第十二條ニ示シタル全國ノ男兒十七歲國民軍ニ入ラシムヘキハ其本年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ滿十七歲ト成ル者ヲ前年十六歲ノ十二月取調へ成丁簿ニ記シ府縣廳ニ備へ置キ而國民軍人員表雛形ニ準シ十七歲ノ者幾人十八歲ノ者幾人ト順次四十歲ニ及ホシ之ヲ一大區又ハ一郡ニ括リ而又之ヲ一府縣ニ合セ翌年一月中ニ陸軍省へ差出スヘシ尤成丁簿ハ所用ノ節需メニ應シ差出タスヘキヲ以出入死没等之有ルホハ必ズ年簿ニ加ヘ置クヘシ

陳阿大區

成丁簿維形

姓 名	住 所	戶 主	誕 生	族 職 業	備 考
何某	何區何何何何番地	何某	年 月 日	何族	
同	何小區何何番地	何人	同	農	
同	同	同	同	工	
同	同	同	同	商	

備考

備考

晉余

タル邊界ニ住居シタル者其管外ニ出ツルヲ禁スルキハ支障最多
ガルヘシ是故ニ此等ノ者ハ他管ト雖一泊途程ノ所ハ自己管内ト
見做シ往來スルモ妨ナシ

第百六十八號 明治八年十一月廿五日 陸軍省達

後備軍召集條例別紙之通陸軍省ヨリ達有之候條此旨可相心得候事

明治八年十一月八日發行
後備軍召集條例

鎮 盛
府 縣

後備軍召集條例則冊之通相定候條此旨相達候事

明治八年十月廿三日

後備軍召集條例

第一條 凡後備軍召集法ハ平時戰時共違ニ之ヲ召集シ得且隊伍ニ
 編制スルヲ容易ニシテ枝梧ナキヲ要ス爰ニ記載スル所ノモハ
 概テ平時復習ニ當テ召集スルノ順序トス然レモ戰時ニ在テ召集
 スル法ニ亦此例ニ據ル唯其後急ヲ異ニスル而已

第二條 復習ノ爲メ第一後備兵ヲ召集シ之ヲ各隊ニ分配スルモハ
 戰時ノ人員ニ適當スルヲ以テ別ニ隊伍ヲ編制スルヲナシ營所或

ハ分屯ノ地ニ召集シ戰時ノ人員トナシ復習シシムルヲ法トス尤
 在營中ハ百事常備兵ト異ナルヲナシ

第三條 毎年ノ復習ハ二月ヨリ五月中便宜ヲ量リ陸軍卿ノ許可ヲ
 得テ之ヲ行フ而シテ其期限ハ概テ四週間乃至八週間ヲ以テ例ト
 ス然レモ時トシテ之ヲ變更セサルヲ得ス

但軍隊ノ都合ニヨリ八月ヨリ十月中ニ延期スルコトモアルヘシ

第四條 凡ソ復習ノ術科ハ左表ノ通ナルヘシ然リト雖モ該營司令
 長官ハ時宜ニ依リ之ヲ取捨スルコトヲ得ヘシ

步兵	騎兵	野砲	山砲	工兵	輜重兵
體操	體操	砲卒	砲卒	體操	乘馬徒歩
生兵運動	乘馬徒歩 生兵運動	徒歩 生兵運動	生兵運動	生兵運動	乘馬徒歩 生兵運動
小隊運動	乘馬徒歩 小隊運動	徒歩 小隊運動	全	小隊運動	乘馬徒歩 小隊運動

大隊運動	乘馬徒歩	小銃	乘馬	小銃	全	撤兵運動	馬運動
撤兵運動	乘馬徒歩	射的術	體操	徒歩	全	射的術	駁者運動
射的術	撤兵運動	砲使用	生兵運動	大隊運動	乘馬	砲使用	工兵作業
野營演習	野營演習	分隊運動	駁者運動	砲使用	生兵運動	野營演習	野營演習
		砲隊運動	全	全	砲使用		
		砲射的術	全	砲射的術	乘馬		
					小隊運動		
					分隊運動		
					砲隊運動		
					砲射的術		

第五條 第一後備兵ノ召集ハ凡ソ一ヶ月前ニ所管鎮臺司令長官ヨリ其府縣ニ左ノ書東ヲ以テ通報スヘシ
但料紙ハ美濃界紙ヲ用ニ第十三條第二十三條皆同シ

來ル何月何日ヨリ定例ノ通第二後備軍操練復習爲致候條其管下同軍各兵へ兼テ御布達可有之最召集手續詳細之儀ハ其駐在曹長ヨリ該區長へ通達ニ可及候此段及御達候也

年號月日

何鎮臺司令長官 官 姓 名

府縣知事令宛

第六條 召集ノ期ニ至レハ後備軍司令ハ該臺司令長官ノ命ヲ奉リ府縣駐在ノ曹長ニ達シ第二後備兵ヲ召集セシムヘシ
第七條 駐在曹長ハ復習ノ期ニ於テ事務極メテ繁劇ナルモハ後備軍司令ノ許可ヲ得テ其地方後備兵ノ内元下士ニ服役シタル者一二名ヲ撰拔シテ助手トナスコトヲ得ヘシ
第八條 各駐在曹長其府縣下ノ兵員ヲ集合セシムル場所ヲ第一集合所ト云ヒ而シテ後備軍司令ノ許ニ集合スル場所ヲ第二集合所

ト云フ

第九條 第一集合所ニ於テ復習中居民ノ倉庫或ハ家屋ヲ借受ケ各兵ノ零服及ヒ私服ヲ入ルヘキ用ニ供スヘシ

第十條 後備軍司令ハ豫メ鎮臺司令長官ノ許可ヲ得テ武庫主管ヨリ武器ヲ請取リ後備兵到着ノキ分與スヘキ準備ヲ爲シ置クヘシ

第十一條 後備軍司令ハ召集ノ兵員ニ應シ通行免狀ヲ製シ豫メ駐在曹長ニ渡シ置クヘシ

第十二條 後備軍司令ハ召集ニ先チテ各營所ニ分配スル兵員ヲ豫算シ一府縣下ノ兵員許多ノ差ヲ生シ一營所ニ送附スルノ員ニ剩餘或ハ不足ヲ生スルキハ他府縣ノ兵ト交互受付スヘキトテ前以テ駐在曹長ニ達シ置クヘシ

但兵員寡少ニシテ各營所ニ分配スルニ足ラサルキハ該臺司令長官ノ許可ヲ得テ彼ノ營所ヲ省キ此ノ營所ノニ集合スルコトヲ

ルヘシ

第十三條 駐在曹長ハ後備軍司令ノ命ヲ受ケ左式ノ書翰ヲ作り其人員ニ應シ通行免狀ヲ併セテ該府縣ノ區長ニ送達スヘシ

書式

第何大區何小區何郡何村住第一後備軍兵卒

明治何年何種番號

姓 名

同

同

此度定例之通操練復習有之候條右人員來ル何月何日某地ヘ無相違到着候様御取計可有之候也

年號月日

何府縣駐在

官 姓 名 印

某府縣

第何區長

御中

追テ通行免狀何枚差送候條各員へ御分配可有之候也
通行免狀雖形寸法左ノ通
但厚紙ニテ製スヘシ

五寸

第何軍管第何師管後備軍兵卒
明治何年兵種 第何番 姓名
自何府(縣)何大區何小區何村(町)至何々營所往復

通行免狀

後備軍
令印可備

此免狀ハ歸郷ノ上直ニ區長ニ差出スヘシ

往

一旅費
一金何程

一所持
一金何程

一何年何月何日 發途

區長或ハ戶長
姓名印

何月何日何地某方ニ宿ス
何府(縣)第何大區何小區
區長或ハ戶長
姓名印

一何日ヨリ何日迄病氣或ハ
何々ニ依テ滞在

右同斷

姓名印

一何月何日何地乘船何月何
日何地上陸

何船長

姓名印

還

一旅費
一金何程

一所持
一金何程

一何年何月何日 發途

後備軍書記
官姓名印

其他書法上ニ同シ

第十四條 區長ハ該區中第一後備兵ニ前條ノ旨趣ヲ通達シ各兵出發ニ際シテ通行免狀及ヒ徵兵令參考第三十一條ニ揭示スル如ク旅費ヲ渡シ其兵卒ヲシテ某ノ地ニ單行セシムヘシ

第十五條 區長ハ召集ノ後備兵若シ病氣或ハ事故出來召集ニ應シ難キ者アルトハ徵兵令第六章第三條ニ準シ各兵到着當日ニ第一集合所出張ノ駐在曹長ヘ遺漏ナク届出ヘシ

第十六條 駐在曹長ハ預ル所ノ被服ヲ兼テ第一集合所ニ輸送シ置キ而シテ集合前日迄ニ同所ニ出張シ事務ヲ辦理スヘシ

第十七條 駐在曹長ハ後備兵到着ニ當テ通行免狀ヲ檢査シ人員ヲ較計シ兼テ預ル所ノ帽衣袴靴等ヲ分付シ其私服ヲ纏メ一名毎ニ木札ヲ付ケ之レニ番號及姓名ヲ記シ第九條ノ倉庫或ハ家屋ニ藏シ置キ各區長ヨリ差出ス不參ノ届書ヲ取纏メ然ル後營所或ハ分屯ノ地ニ導クヘシ

第十八條 若シ第十二條ニ揭示スル如ク他府縣駐在ノ曹長ニ交付スヘキ兵員アルトハ其員中ニ就テ一二名ヲ撰擢シ之ニ取締ヲ命ジ他ノ集合所ニ送附スヘシ

第十九條 後備軍司令ハ後備兵ノ到着セシト各簿及ヒ病氣事故等ニテ不參ノ者ノ届書ヲ照査シ各員ニ武器ヲ分與シ然ル後之レヲ各隊長ニ交付スヘシ

第二十條 師管ニアラサル營所或ハ分屯ノ地ニ在テハ後備軍司令預メ武器ヲ輸送シ且副官ヲ差遣シ召集ノ事務ヲ總理セシムヘシ

第二十一條 各隊長ハ後備軍司令ヨリ兵員ヲ受領シ之ヲ隊中ニ分賦スヘシ

第二十二條 後備兵病氣或ハ事故等ニテ召集ニ應セサル者復習ノ半ハ迄ニ治癒シ或ハ事故了ルトハ區長直ニ此者ニ通行ノ免狀ヲ與ヘ駐在曹長ノ許ニ至ラシムヘシ

第二十三條 前條ノ者到着スルハ駐在曹長ハ通行免狀ヲ檢シ被服ヲ與ヘ後備軍司令ニ左ノ書簡ヲ添ヘ直ニ出途ヲ命スヘシ

書式

何府縣管何大區何小區何村第一後備軍兵卒

明治何年兵種番號

姓 名

右ノ者病氣全快或ハ事故相濟候旨届出候ニ付本日爲致候程候也

年號月日

何府縣駐在

官 姓 名 印

後備軍司令宛

第二十四條 後備軍司令ハ復習竣ルノ前豫メ後備兵ノ旅費ヲ請取置キ當日ニ至リ配當スルノ準備ヲ爲シ置クヘシ

第二十五條 復習竣ルノ翌日各隊長ハ後備軍司令ト共ニ後備兵ヲ

整列場ニ導キ人員武器ノ檢査ヲ爲シ檢査了レハ直ニ武庫主管ニ武器ヲ返却シ曹長一名軍曹一二名ヲシテ第二集合所ニ導カシムヘシ

第二十六條 其兵員第二集合所ニ到着スルキ後備軍司令ハ各員ノ通行免狀ヲ檢査シ旅費ヲ渡シ其員中ニ就テ一二名ヲ選擢シ之ニ取締ヲ命ジ第一集合所ニ到ラシムヘシ

第二十七條 復習終ルノ日限ニ至レハ駐在曹長再ヒ第一集合所ニ出張スヘシ

第二十八條 後備兵第一集合所ニ到着スルキハ駐在曹長各員ノ通行免狀ヲ檢査シ而シテ其被服ト私服トヲ交換シ各自歸路ニ就カシメ其被服ハ已レノ駐在所ニ送ルヘシ

第二十九條 後備兵若シ途中ニ於テ故意被服ヲ破綻スル等ノ所業アルキハ取締ノ者之ヲ取亂シ其姓名ヲ筆記シ置キ第一集合所ニ

到着セシキ駐在曹長ニ届出ヘシ

第三十條 駐在曹長右等ノ者ノ姓名書ヲ受取ルルハ正ニ本人ヲ取
糺シ而シテ後其事由及姓名ヲ報告書ニ記載シ後備軍司令ニ上申
スヘシ

第三十一條 復習終リ歸郷スルキニ當リ若シ病氣ニ依テ出發スル
ト能ハサルキハ全快ヲ待テ歸郷ヲ命スヘシ

但病症ニヨリ不得止キハ醫官ノ診断書ヲ証シ車駕料ヲ給スル
トアリ然ルルキハ其事由ヲ通行免狀ノ内ニ記載スヘシ

第三十二條 復習終テ歸郷セシムルノキニ當リ在營中ノ犯罪軍律
ニ係ル者ハ裁判官ニ引渡スヘシ其懲罰ニ屬シ期限未タ滿テサル
者ハ其儘歸郷セシメ曹長ヨリ本人住居ノ區長ニ報知シ殘餘ノ罰
ハ自宅ニ於テ禁錮セシムヘシ

第三十三條 後請兵各自歸郷スレハ區長ハ直ニ通行免狀ヲ取經メ

三十日以内ニ陸在曹長ノ許ニ返附スヘシ

第七十三號 明治八年十二月二日

本年陸軍省第百四十七號ヲ以布達有之候辛未年廢藩置縣ニ四鎮營被
置候節召集之兵隊下士以下ニ下賜候壹人口之儀在役中ノ者ハ軍隊
手帳寫ニ隊長等之檢印ヲ受本管廳ニ差廻シ右ヲ以取調既ニ免役除
隊ノ者ハ所持之軍隊手帳調査ノ上可下渡旨布達ニ付除隊之者手帳
之儀ハ去ル廿五日迄ニ差出候様布達致置候ニ付差出漏ノ者無之等
ニ候處在役中之者ヨリ差送候手帳寫證書留主引受人又ハ親族間ニ
送着之分差出方遷延此節ニ至リ差出候向ニ有之者ハ内務省ニ名簿
進達方期限ニ有之進達後差出候テハ不都合ニ付未タ證書廻送無之
分ニ有之候ハ、就速取寄方ハ勿論送着相成居候分ハ來十五日迄之
内ニ必ス可差出候事

第百七十八號 明治八年十二月十九日

徵兵適齡之者他家發子或ハ分家等ニテ本年二月檢査之際死後ニ相成其後誰則退轉當今次三男亦ハ附籍厄介等現在ニ者明年徵兵調査檢査可致候間至急取調毎大區取廻有無共來ルヲ廿七日限可届出此旨相違候事

第百八十一號 明治八年十二月廿九日

名古屋漢臺歩兵第六聯隊爲訓練自今夜分不時集合壹貳里外ニ行軍爲致候旨通知有之候條此旨可必得事

銃砲 附彈藥

第三號 明治六年十一月

硝石ノ儀ハ別段御締ハ無之候得共其實火藥之根元ニ付其所用ヲ尋可賣渡管ニ候處往々等間相成候ヨリ右ヲ買入揚火等ニ所用之爲自儘ニ火藥製造致候者有之不都合ノ事ニ候既ニ昨壬申年彈藥取締規則御發行彈藥宛許商人御取立之上ハ無能火藥相製シ候儀不相成ハ勿論ニ付爾來硝石商業ノ者ハ賣主ノ所用ヲ爲ト取立ノ上賣渡不締無之様ヲ致候高一相賣密賣等致シ後日發顯候者於有之ヲハ屹度管可申付此旨右商業藥店等ニ無様可相違者也

第百五十二號 明治八年十月廿四日

去明治五年正月銃砲取締規則公布相成候ニ付管下時銃再應取調候義ニ付方今無様印之銃砲所持之者無之管ニ候得共中ニハ今以無繪

印貯藏之者有之哉。不相濟義。付夫々處分可及管。候得共畢竟山間僻地之頑民御規則不了解心得違所持之義。夫實際無據相聞候。付此度限リ聞届候條銃砲及彈藥所持之者。來十一月三十日限リ從前檢査之有無。不拘別紙雜形之通取調更。可届出事。但右日限后密藏之者於有之。規則。照準屹度可及處分候條此段可相心得事。

銃砲彈藥届

何番軍銃或ハ獵用 但和字洋字共打込印之通認。可差出

一何銃 玉目何文目 何挺

何番 何挺

一何銃 何挺

無番號 何挺

一何銃 何挺

一何銃 何挺

何十何挺

社寺

無號 明治六年三月

鄉村社ヲ初官許ヲ受テ創建ノ神社ヲ除ノ外私立ノ諸祠悉皆廢却申付候事

附人家ノ屋敷内ニ有之社モ同様ノ事

一 町限リ私立ノ庵室并辻地藏路傍ノ觀音ハ勿論且又寺院墓所外ノ題自念佛之本石神等總テ官許ヲ不請シテ造立之類悉皆廢却申付候事

右ノ趣正權區長正副區長於テ篤ト逐調查四月三十日ヲ限リ處分ノ上廢却ノ員數詳細爲書出一大區毎一區ニ致シ可届出者也

但願却ノ社堂等賣拂義校ノ資金中へ差加候額不苦候事

無驗 明治六年九月

諸寺院梵鐘之儀昨壬申十一月猶奉年二月中相違置候件々詮議之次第有之取消候間旨今法用ニ撞鳴候儀ハ可爲勝手事

但シ非常之節ハ早鐘相鳴シ可申尤平日撞鐘之規則明細書其々可指出事

無驗 明治六年十一月五日

敬神之儀ハ兼而公布之旨モ有之一同崇敬可致ハ勿論ニ候處中ニハ境内地へ齋座等積置甚シキニ至テハ拜殿へモ積入不潔ノ至如何之事ニ候難向後其町村又ハ氏子中願相立方様不潔無之様掃除可致候事

第八號 明治七年一月

本堂庫裏或ハ座敷等示談ノ上學校へ貸渡候寺院ニ於テハ左ノ二條

ノ通可相心得此段相違候事

第一條

一 法用說教等毎月恆例定日相立候分ハ可成丈ク學校ノ休暇一六ノ日ニ執行候様可致事

第二條

一 正權大少数正等派出說教有之若學校教場等相用ヒス候テハ難相成事由モ有之候ハ、兼テ其寺院ヨリ學校掛應へ申立ツヘシハ、支應所管ノ四郡ハ支應へ申出ツヘシ同掛ニテ僉議ノ上其旨學區取締或ハ其校幹事試補等へ相違休校爲致可申事

第三條

一 約定書左ノ文例ニ倣ヒ可取計事 幹事試補ニ於テハ寺院ヨリ文例第幾番小學何々學校ノ儀追テ新築候迄貴寺何々都合幾ク所或ハ幾間月稅何圓幾十錢ニテ示談納得貸借イタシ候上ハ說教法用ニテ無

余議教場入用ノ節ハ右執行中休校可致旨其筋ヨリ御達有之次第差
得無之様可取計依之定約書差出候也

第幾番中學區内
第幾番小學何々學校
幹事試補
年号月日
何 誰 印
何 誰 印

何々寺住職
何 誰 殿

但年間法用等ニテ幾度モ休校候ニ其日數ヲ通算シ税金引去
儀モ示談ヲ遂ケ定約書へ記入致置シモ妨ナシトス

第十六號 明治七年三月

諸寺院ニ於テ年忌ヲ退別段開帳不相成旨明治六年三月中相違置候
處右者證議之次第モ有之開帳開扉等自今差許候條其都度々々願出
可受許可候事

第三十三號 明治七年四月

修驗宗之儀去壬申年太政官第二百七十三號御布告ニ依リ各自天台
真言之兩宗へ歸入之處中ニハ舊弊ヲ固守荒神祭或ハ星祭等之守札
ナ各地方ニ頒布人民致益惑候者モ有之儀ニ相聞以外之事ニ候以
來右様之者有之於テハ嚴重之可及處分候條各區内區戸長ハ勿論小
前末々ニ至迄此度注意可致候事

第六拾貳號 明治七年七月 教部省達第二拾八号

別紙之通教部省ヨリ被達候條雜形ニ照準シ取調各大區々長ニ而取
廻來ル八月卅一日迄ニ縣廳へ可差出事

府 縣

今般於當省神名牒纂定政候條各管内延喜式内并國史見在ノ神社ハ
テ當今其所在未定或ハ社地垣埋ノ分ハ無遺漏搜索檢取致シ每社考
證書及繪圖面ヲモ和添可差出且又式帳圖史外ト雖トモ格別之古社

警ハ宮城縣管内福徳神社奈川縣内大國魂神社并ニ古社ニ非ラス
 愛知縣管内津島神社府縣管内廣澤神社
 其地法ニ深キ山縁ノ神社 警ハ白川縣管内有地神社錦山神社山口
 有之候ハ、當今社格ノ有無ニ拘ラス別紙雛形ニ照準シ逐一取調
 可申尤右神社ノ儀ニ付考證等有之者ハ無忌憚書出候様管下人民ニ
 モ普ク相達來九月限リ取經可差出此旨相達候事
 但本文神社取調ニ付卷敷有之書類送還賃ハ當省ヨリ可下渡尤普
 類返却相願候分ハ御用濟早々差戻候條此旨可相心得事
 何府縣錄何大區何小區何國何郡町
 鎮座 山ナラハ山名字ア
 ヲハ字ヲ注スヘシ
 某神社
 祭神
 田緒 舊神官家系ヲモ略記附載スヘシ
 勸請年月

例祭日
 社殿建坪
 境内反別 舊境内幾許
 舊社領 朱黒印カ舊藩寄附カ
 氏子戸數
 自該廳距離
 以上
 明治七年六月廿九日

第三百三十八號 明治七年十二月
 式内神社ヲ無謂官社ト唱ヘ候向有之不都合之事ニ候條鄉村社以下
 ハ左ノ雛形ノ通標柱境内入口或ハ鳥居脇等ノ内適宜見計ヒ來明治
 八年一月中ニ取建可申此旨相達候事

郷社書式

左横 表面

本品檜段凡八寸角 長サ地上七尺

第何大區何小區 村數何十何十戸
郷社 式内何々神社
式外式外認
祠官等名札
御名別表
御釘打ス

式外式外認

祠官等名札

御名別表

御釘打ス

右横 裏面

第何大區何小區 村數何十何十戸
鎮座當 何何 明治八年一月何日建之
字アア字何々

字アア字何々

左横 表面

本品 前同斷凡七寸角 長サ地上七尺

第何大區何小區 戸數何百何十戸
村社 式内何々神社
式外分式外認
名札同斷

式外分式外認

名札同斷

右横 裏面

第何大區何小區 戸數何百何十戸
鎮座當 何何 明治八年一月何日建之
字アア字何々

字アア字何々

村社書式

員外社書式

左横 表面

本品 前同斷凡六寸角 長サ地上六尺

第何大區何小區 何何
村社 何々神社

右横 裏面

第何大區何小區 何何
鎮座當 何何 明治八年一月何日建之
字アア字何々

字アア字何々

無號 明治八年九月

同上

諸寺院之儀ハ布教之道場ニシテ俗家ニ混ス可カラサル勿論之處近
來ハ動モスレハ絃客寄セ舞子ノ如キ浮業ノ試験場風俗ニ關シ候業
体ノ者ハ貸渡候者有之不都合之事ニ候條自今右等之儀無之様諸寺
院ハ達方可取計此旨相達候事

無號 明治八年十二月

教導取締

自今開帳說教及入佛供養等ニ付建札度輩ハ左ノ雜形ニ照準
可爲願出候但該寺并ニ適宜之場一ヶ所ノ外ハ一切許可不相成儀ト
可相心得此旨相達候事

竪一尺五寸ヨリ長カラス

横一尺ヨリ廣カラス

無號 明治八年九月

同上

各宗教職之輩許可ヲ不得シテ恣ニ農商ノ宅ヲ以說教場トナシ加之
勸財貪利ニ紛取行モ有之儀ノ趣相聞ヘ右ハ御趣意ニ悞リ以之外
之事ニ候條心得違無之様可致注意候事

第百六十五號

明治八年十一月十八日

各大區正副戶長

當管下縣社以下ノ祭祀料及祠官掌ノ月給等民費課出相成居リ候得
共右ハ追々公布ノ旨モ有之儀ニ付來ル明治九年一月以後ハ民費課
出ノ法ヲ廢シ明治六年第六十七號第二百七十七號公布ノ通り人民
ノ信仰歸依ニ任セ候儀ト可相心得事

警察

第三百三十七號 明治八年三月

從來庶務課中警察係置候處來ル四月一日ヨリ更ニ警察係設置候條此旨相違候也

第四百四十八號 明治八年

今般第五大區一ノ宮第十大區岡崎驛ニ警察出張所増置候事

一右ニ付各所警察出張所ノ所轄左ノ通相定來ル十一月五日ヨリ事務取扱候條從前本縣ニ差出候吟味願等渾テ警察上ニ關係ノ儀同日以後ハ直ニ各出張所ニ可申出事
但第六大區津島村邊卒屯所ニ警察係官員出張候條右區内ノ分ハ同所ニ申出候儀モ不苦候事

名古屋出張所所轄

- 第一大區
- 第二大區
- 第三大區
- 第七大區

一ノ宮出張所所轄

- 第四大區
- 第五大區
- 第六大區

岡崎出張所所轄

- 第八大區
- 第九大區
- 第十大區

第百七十七號 明治八年十二月十五日 大政官御達第百八十二號

選卒ヲ巡查ト改メ等級月俸左ノ通相定候條此旨相達候事

明治八年十一月廿四日

官等 月俸

- 一等巡查 等外一等 七圓
- 二等巡查 等外二等 六圓
- 三等巡查 等外三等 五圓
- 四等巡查 等外四等 四圓

緝捕

無號 明治八年四月

以來出張先ニ於テ犯罪者捕縛致シ縣廳ニ護送之途中自今寐泊等致

候時ハ該區戸長ニ談示儘成ル者雇入不寐番可爲致若シ逃走之義有之時ハ則番人之不念ニ及シ候條此旨可相心得候事

但番人賃錢之儀ハ半夜十二錢五厘一夜二十五錢ト相定メ給與候間護送ノ節仕拂置受取証相添可申立尤重犯罪之者ハ此限リニ無之事

捕縛人護送之義ニ付別紙之通相達候條此旨可相心得事

無號 明治七年六月

正副長

諸府縣ニ於テ所刑中逃亡ノ者搜索方掛合有之候節右全文寫指廻候條其區其區ニ於テ左ノ書式通相認揭示可致此旨兼而相達置候事

明治七年六月

愛知縣

式番

本貫原籍
姓名
年齢

一人類

一、

一衣類

一、

右之者儀何縣ニ於テ、刑罰中本年何月何日致逃亡候ニ付同縣ニ
リ捕縛方聯合有之候條嚴密遂搜索見當リ次第可届出此旨相違候事

違式

第八十九號

明治七年九月

太政官御布告第二百五十六號

昨明治六年七月太政官第二百五十六號ヲ以御尋相成候違式註違來
ル十月十日ヨリ管内一般施行候ニ付別紙之條例違犯之者ハ無宥赦
處置致シ候條未々迄心得違無之様屹度可相守事

各地方違式註違條例別冊之通被定候條此旨布告候事

但地方之便宜ニ依リ斟酌増減之處ハ警保察ニ可伺出且條例揭示
之儀モ同察ノ指揮ヲ可受事

明治六年七月十九日

議 違 違 式 條 例

違式註違條例

- 第一條 違式ノ罪ヲ犯スモノハ七十五錢ヨリ少ナカラス百五十錢ヨリ多カラサル贖金ヲ追徴ス
- 第二條 註違ノ罪ヲ犯スモノハ六錢二厘五毛ヨリ少ナカラス十二錢五厘ヨリ多カラサル贖金ヲ追徴ス
- 第三條 違式註違ノ罪ヲ犯シ無力ノモノハ實決スル事左ノ如シ
 - 一 違式 管罪 一十ヨリ少ナカラス
 - 一 註違 拘留 一日ヨリ少ナカラス
 - 一 註違 拘留 二日ヨリ多カラス
- 第四條 違式并ニ註違ノ罪ニヨリ取上クヘキ物品ハ贖金ヲ科スルノ外別ニ沒收ノ申渡シヲ爲スヘシ
- 第五條 違式註違ノ罪ヲ犯シ人ニ損失ヲ蒙ラシムル時ハ先ツ其損失ニ當ル贖金ヲ出サシメ後ニ贖金ヲ命スヘシ

違式罪目

- 第六條 此條御違ニ依テ除之
- 第七條 贖造ノ飲食物并ニ腐敗ノ食物ヲ知テ販賣スル者
- 第八條 往來又ハ下水外河中等ニ家作并ニ孫庇等々自在ニ張出シ或ハ河岸地除地等ニ願ナク家作スル者
- 第九條 春晝及ヒ其類ノ諸器物ヲ販賣スル者
- 第十條 病牛死牛其他病死ノ禽獸ヲ知リテ販賣スル者
- 第十一條 身體ニ刺續ヲナス者
- 第十二條 男女入込ノ湯ヲ渡世スル者
- 第十三條 乘馬シテ狼リニ馳驅シ又馬車ヲ疾驅シテ行人ヲ觸倒ス者但殺傷スルモノハ此限ニアラス
- 第十四條 外國人ヲ無屈ニテ止宿セシムル者
- 第十五條 外國人ヲ私ニ雜居セシムル者

- 第十六條 夜中無燈ノ馬車ヲ以テ通行スル者
- 第十七條 人家稠密ノ場所ニチイテ妄リニ火枝ヲ玩フモノ
- 第十八條 火事場ニ關係ナクシテ乘馬スルモノ
- 第十九條 戲ニ往來ノ常燈臺ヲ破毀スルモノ
- 第二十條 馬及ヒ車留ノ揭示アル道路橋梁ヲ犯シテ通行スルモノ
- 第二十一條 男女相撲并ニ蛇遊ヒ其他醜體ヲ見世物ニ出スモノ
- 第二十二條 川堀下水等ニ土芥瓦礫等ヲ投棄シ流通ヲ妨クルモノ
- 第二十三條 他人持場ノ海藻類ヲ斷リナク刈採ルモノ
- 第二十四條 他人ノ持場又ハ免詁ヲキ場所ニ魚鱉ヲ設ル者
- 第二十五條 毒藥并ニ激烈氣物ヲ用ヒ魚鳥ヲ捕ルモノ
- 第二十六條 他人分ノ田水ハ勿論組合持ノ田水ヲ斷リナク自恣ニ我カ田ニ引入ルモノ
- 第二十七條 他人ノ持場ニ入り箕或ハ草類ヲ無斷採リ去ルモノ

- 第二十八條 揚場場ヲ汚損シ并ニ其圍ヲ破毀スルモノ
- 第二十九條 堤ヲ壞テ又ハ斷リナク他人ノ田圃ヲ堀ルモノ
- 第三十條 道敷内ニ菜蔬豆類ヲ植或ハ汚物ヲ積ミ往來ヲ妨クルモノ
- 第三十一條 他村又ハ他人持場ノ秧或ハ苗代草等ヲ斷リナク刈採ルモノ
- 第三十二條 婚姻祝儀等ノ節事故ニ托シ往來又ハ其家宅ニ妨害ヲナスモノ
- 第三十三條 馬夫或ハ日雇稼ノ者等仲間ヲ結ヒ他人ノ稼ヲ爲スニ故障スルモノ
- 第三十四條 神佛祭事ニ托シ人ニ妨害ヲナスモノ
- 第三十五條 往來ニテ死牛馬ノ皮ヲ剥キ肉ヲ屠ルモノ
- 第三十六條 他人ノ墓碑ヲ毀損スルモノ

第二十七條

官有ノ山林等ヲ禁制ノ標示アルヲ犯セシ者

第三十八條

御用上書タル小旗提燈等ヲ免許ナク猥リニ用ル者

第三十九條

他人ノ繫舟ヲ無斷掉シ遊フ者

第四十條

官有或ハ他人ノ山林田畠ニ入り植物ヲ損害スル者

第四十一條

神社佛閣ノ器物類ヲ破毀スル者

第四十二條

註違罪目

第四十三條

狹路ノ小路ヲ馬車ニテ馳走スル者

第四十四條

夜中無提燈ニテ諸車ヲ挽キ又ハ乘馬スル者

第四十五條

但陸海軍ノ諸兵隊伍ヲ組夜陰行進スルハ此限ニ非ス

第四十六條

掛酌ナク馬車ヲ疾驅セシメテ行人ニ迷惑ヲ掛ケシモノ
馬車及ヒ人力車荷車等ヲ往來ニ置キ行人ノ妨ヲナシ及

牛馬ヲ街衢ニ横クシ行人ヲ妨ケシ者

第四十七條

禽獸ノ死スル者或ハ汚穢ノ物ヲ往來等ニ投棄スル者

第四十八條

婦人ニシテ謂ノナン斷髮スル者

第四十九條

荷車及ヒ人力車行進ノ節行人ニ迷惑ヲカケシ者

第五十條

下掃除ノ者蓋ナキ糞桶ヲ以テ搬運スル者

第五十一條

旅館屋渡世ノ者止宿人名ヲ記載セス或ハ之ヲ届ケ出サル者

第五十二條

往來筋ノ号札又ハ人家ノ番号名札看板等ヲ戲ニ破毀ス

ル者

第五十三條

喧嘩口論及ヒ人ノ自由ヲ妨ケ且驚愕スヘキ噪鬧ヲ爲シ

出セル者

第五十四條

往來常燈ヲ戲ニ消滅スル者

第五十五條

鹿忽ニ依リ人ニ汚穢物及ヒ石礫等ヲ抛澆セシ者

第五十六條

田圃種藝ノ路ナキ場ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入ル者

第五十七條

第五十八條 荷車及ヒ人力車等ヲ並ニ挽キテ通行ヲ妨ケシ者
 第五十九條 誤テ牛馬ヲ放テテ人家ニ入レシメシ者
 第六十條 犬ヲ闘ハシメ及ヒ戯ニ人ニ吠スル者
 第六十一條 巨大ノ紙鳶ヲ揚ケ妨害ヲ爲ス者
 第六十二條 酔ニ乘ン又ハ戯ニ車馬往來ノ妨碍ヲナス者
 第六十三條 雜魚乾場ニ妨害ヲナス者
 第六十四條 海苔乾場ニ妨害ヲナス者
 第六十五條 他人ノ魚築等ニ妨害ヲ爲ス者
 第六十六條 養田水其外用水ニ妨害ヲナスモノ
 第六十七條 氷除抗ニ妨害ヲナシ又ハ之ヲ拔取ルモノ
 第六十八條 他人ノ竹木ニ妨害ヲナシ又ハ枝葉ヲ拾取ルモノ
 第六十九條 他人ノ獵場ニ妨害スル者
 第七十條 他人ノ植籬牆垣ヲ損害スルモノ

第七十一條 渡船ニテ不當ノ賃錢ヲ取リ或ハ等閑ニ行ハテ待シメ用
 便ヲ妨クルモノ
 第七十二條 往還ノ並木及ヒ苗木ヲ徒ニ害スルモノ
 第七十三條 渡舟橋梁ノ賃錢ヲ不拂シテ去ルモノ
 第七十四條 誤テ牛馬ヲ放テテ他人ノ田圃及ヒ物品ヲ損害スル者
 第七十五條 猥リニ他人ノ爭論ニ荷擔スル者
 第七十六條 行人ニ合力等ヲ申掛ルモノ
 第七十七條 牧場外猥リニ牛馬ヲ放テ飼スルモノ
 第七十八條 他人ノ獸畜類等ニ犬ヲ吠ヒ掛ルモノ
 第七十九條 他人ノ墳墓等ノ供品類ヲ猥リニ毀損スルモノ
 第八十條 氷車氷碓等ニ妨害ヲナスモノ
 第八十一條 行人ニ強テ車馬駕籠等ヲス、メ過言ヲ申掛ルモノ
 第八十二條 他人ノ曝曬ニ妨害ヲナスモノ

第八十三條 他人ノ海苔柵内へ断リナク舟ヲ掉シ入ル者

第八十四條 山林原野ニテ徒ラニ火ヲ焚者

第八十五條 總テノ標柱ニ牛馬ヲ繫キ或ハ破毀スル者

第八十六條 橋柱ニ舟筏ヲ繫ク者

第八十七條 神祠佛堂又ハ他人ノ垣壁等ニ樂書ヲナス者

第八十八條 田畝中ニ瓦礫竹木ヲ投入ル者

第八十九條 遊園及ヒ露傍ノ華木ヲ折リ或ハ植樹ヲ害スル者

第九十條 往來並木ノ枝ニ古草鞋等ヲ投擲ル者

懲役場

第十一號 明治七年二月

懲役人限内ニ在テ父母ノ喪ニ逢フモノハ七日夫及ヒ兄嫂妻孥ノ喪

ハ三日休役セシメ候條右親戚ノ内死亡ノモノ有之候ハ、其時々懲役場へ可届出候事

第三十號 明治七年四月

懲役人限内ニアツテ其父母病ニ罹リ己ニ危篤ニ臨ミ面見ヲ乞フ時其意切ナルモノハ親戚隣佑之モノヨリ其旨趣ヲ記載シ正副戸長與印ヲ以懲役場へ願出ツヘシ其情願己ムヲ得サルハ左之法則ニ依リ暫時面見スルヲ聽ス

第一條

懲役人ノ父母病ニ罹リ己ニ危篤ニ臨ミ面見セシムルヲ乞フ者其親戚隣佑等ヨリ願ヒ出シムルハ之ヲ聽ス

第二條

懲役人ノ親戚隣佑其父母生前ニ面見致サシ度願ヒ出ル者ハ役因テシテ遁逃スルハ律法ニ依リ罰ヲ受クヘキヲ記載セル證書ヲ納ム

第三條

役囚ヲシテ其父母ニ面見セシムル時ハ守卒ニ命ジ其家ニ發送シ戸長等ト約會シテ後チ面見セシムヘシ

第四條

懲役人ハ其父母所在ノ家ニ至リ病床ニ臨ミ暫時凡一ノ間面見スルヲヲ聽ル

第五條

父母遠地ニ在リ往復ノ時夜間ニ跨ルモ其家ニ止宿スルヲヲ聽サス

第六條

郷里遠地ニシテ即日歸場スルヲ得ス途中ニ泊宿シ或ハ飲食等己ヲ得サルノ入費ハ一切私費タルヘシ但シ追而願人ヨリ償還スヘシ

第七條

往復ノ途中輕鎖ヲ用ユ其家ニアルモ尙脱具ヲ聽サス

第八條

面見ハ只痛苦慰言ノ應答ノミニ止メ他ノ事故ニ及フヲ聽サス

第九條

若シ俱々他ノ事故アリテ言ハサルヲ得サルアレハ別ニ其事由ヲ書記シテ願出ツヘシ其答弁ヲサシムル等ノ方法ハ監獄則ニ由テ處分スヘシ

第十條

役囚欠役ノ時日ハ限内ニ算入セス

第十一條

守卒ハ戸長初メ約會者ヲシテ其言フトコロヲ詳記セシメ事由ヲ具申スヘシ

第十二條

父母ハ養實ヲ問ハス同シ論ス

第十三條

役囚ノ父母病ニ罹リ已ニ危篤ノ症ニ至リ面見ヲ願ハントスルキハ必ス醫ノ容休書ヲ添テ願ヒ出ツヘシ

第十四條

若シ偽テ病ト稱シ或ハ輕病者ナシテ重病者トナシ官ヲ欺ヒテ其父母ニ面見セシメ若クハ病苦慰言ノ應答ニアラサル他ノ言語ヲ通セシムル等ノ所爲之レ有ルニ於テハ急度處分ニ及フヘシ

第十五條

輕病者ヲ認テ重病者トナス等ノ如キ所爲之レ有ルニ於テハ其醫師并尸長手前ノ越度タルヘシ

第十六條

願書雜形

應役人父母面會願

第何大區何小區

郡村何番地

何

之 誰 或ハ兄弟

右ハ私親或ハ近隣ノ者ニ親戚ニ御座候處去ル年月日應役被仰付奉恐入候然

ル處同人養父母何ノ誰兼テ病氣ニ御座候處退々危篤ニ立至リ此節

俸何ノ誰ニ面見仕度意体ニ付暫時面會被仰付候様仕度尤御主意

ノ趣拜承爲相背申間敷候依テ醫師容休書相添此段奉願候也

第何大區何小區

郡村何番地身

何

之 誰 印

明治何年何月日

愛知縣金苗字名殿

右情願不得止儀ニ付與印仕候

正副戸長
何之 離印

第六拾五號 明治八年五月

昨明治七年一月以來懲役囚獄差入物規定相違置候處今般左之通改定候條此旨可相心得事

差入物之定限

- 一千雜魚 五十枚迄
- 一乾牛乳 五十目迄
- 一鯉節 三本迄
- 一鷄卵 十箇迄
- 一牛肉并鷄肉煮付 一斤迄
- 一鹽魚 二十切迄
- 右之内壹品
- 一大根 一人參
- 一長芋
- 一里芋 一薩摩芋
- 一蓮根 一茄子

- 一午房 一東瓜 一昆布 一欵冬
- 一千瓢 一豆

右之内二品煮付ニシテ重箱或ハ切溜ニ入レ二重迄

- 一砂糖 壹斤迄
- 一澤庵漬 貳拾本迄

- 一梅干 壹升迄
- 一蜜柑 五拾迄

- 一瓜 拾迄
- 一柿 五拾迄

右之内一品

- 一半紙青中紙之内五帖迄
- 一手拭 二筋迄

- 一下帶 二筋迄

右之内一品

- 春秋 拾壹枚
- 夏 單物壹枚

- 冬 綿入一枚
- 春秋冬共襦袢壹枚

- 四季共 蒲團壹枚并シメシ 拾迄

年ニ二度 ケットー壹枚

右食物ハ一ヶ月五度ヲ限トシ差入相許シ候事

但衣類木綿之外禁止之事
未決四種之儀ハ禁止之事

戸籍

無號 明治四年十二月

破産之者分散ト唱財主ニ多少損失ヲ掛候而巳ナラス家財ヲ押隠シ
或ハ名目ノ借財等掩蓋不日ニ開店等致シ候類不都合之者不少由相
聞候右様之惡弊ニ流レ候テハ人間交際上ノ信義ニモ係リ詰リ貨幣
融通ノ道ヲ塞ギ管内之衰微ヲ醸シ候基トモ相成旁不容易儀ニ付急
度可取訂候間心得違無之様可致候付テハ今後分散之儀ハ教育所ヲ
イテ教育ヲ受候者ノ外訴出候モ不取揚候素ヨリ他人へ損失ヲ掛候

上ハ其身其日ヨリ飢渴ニ及候事當然ノ理ニ候間爾來右之通所分イ
タシ候ニ付兼而可相心得候也

無號 明治五年三月

女名目ヲ以戸主タル事ハ後家ニテ繼子無之歟或ハ繼子幼弱ニテ戸
主トイタシ難キモノニ限リ候儀之處夫有之候モノ又ハ戸主タルハ
キ繼子有之モノニテ女名前之向モ往々有之不都合之事ニ候就テハ
自今右様之儀ハ不和成候間早々屈替候様可致候也

無號 明治五年九月

愛知縣區畫章程

第一條

一管内分ツテ六大區九十小區トナス

第二條

一 小區村方ハ凡ニケ村ヨリ四十二ケ村町方ハ八ケ町ヨリ四十九ケ町ニ至ル

第三條

一 名古屋熱田ヲ合シテ一大區トナシ愛知郡ヲ二大區春日井郡ヲ三大區丹羽栗栗兩郡ヲ四大區中島郡ヲ五大區海東海西兩郡ヲ六大區トナス凡テ小區ハ従前ノ大區ヲ改稱シテ別ニ分割チナサズ但名古屋稻置ノ小區ハ之ヲ廢ス

第四條

一 區長權區長戸長副戸長ノ四等ヲ置ク

第五條

一 凡一大區ニ區長一人ニ三小區ニ權區長一人ヲ置ク但名古屋市中戸長ハ五六ケ村ニ一人副戸長ハ一村一町高戸口ノ多寡ニヨリ二人外ニ組頭三人迄ヲ限リ便宜之ヲ置ヘシ

第六條

一 正權區長ハ士民ヲ論セス能ク區内ノ地理事情ニ達練シ篤實清廉ニシテ人望アル者正副戸長一同ノ入札公選ヲモツテ舉之區長ハ月給等外一等ニ準シ權ハ同等ニ準シ巡回往復五里以上ハ日當十五錢ヲ給ス

第七條

一 權區長ノ内兩名常ニ職事所名古屋元成正五位正五位ニ請合布告ヲ各大區ニ頒達シ其他大小職事ノ區用ヲ辨セシム

第八條

一 正副戸長ハ士民ヲ論セス町方ハ家持村方ハ高持ノ内其町村住民一同ノ入札公撰ヲ以テ之ニ任ス月給戸長ハ一圓五十錢副戸長ハ一圓ヲ給ス

第九條

一 組頭ハ町村共住民一同入札ノ上正副區長公撰シテコレヲ命ス

シ月給五十錢ヲ給ス

第十條

一 正副戸長組頭公用ニヨリ議事所ニ詰合セ縣廳ニ出頭シ或ハ町村
内ニテ公務ニアツカルノ日ハ半日以上里數往復五里以上ハ辨當
料ヲ支給ス

第十一條

一 辨當料ハ一度銀貳匁ヲ定トシ晝夜トモ其里數ト時刻トニ應シテ
之ヲ渡スヘシ

但追テ正副區長ノ證書ヲ以テ勘定仕組ニ入ヘシ

第十二條

一 小使ハ毎町村ニ一人ニ限リ集會所アル村ハ別ニ一人ヲ使用スル
ヲ許ス其年給ハ區長戸長ノ見込ヲ以テ其町村日用ノ繁簡ヲ量リ
相當之ヲ支給スヘシ

第十三條

一 毎大區土地ノ辨利ニ隨ヒ集會所ヲ建設シ兼テ區長副ノ詰所トス
區長ハ常詰副ハ交番兩三人宛コヽニ詰合セ區内一切ノ公務ヲ辨
ス若シ縣廳ノ命ニヨリ或ハ士民ノ建議ヲ以テ區内一般ニ關係ス
ル議事アル時ハ戸長副乃至士民ノ其議ニアツカルモノ皆コヽニ
會同スルヲ得ヘシ

但當分元租合會所或ハ最寄寺院ヲ以テ集會所トスルモ妨ナシ

第十四條

一 公務繁劇ノ時集會所等ニ書記雇入其都度相當ノ賃銀ヲ以テ其用
便ニ供スルハ正副戸長ノ見込ニ任スヘシ

第十五條

一 町村費用ハ一ヶ年兩度勘定帳ニ證書相添其區々長ノ檢査ヲ請一
村一町限小間割軒別割或ハ高割貢米割共其所ノ適宜ヲ以テ公平

ニ割賦シ越高ト雖別ニ掛増等ノ舊弊アルヘカラス

第十六條

一 一小区ニ關係ノ費用ハ同前ノ手數ヲ經テ其小区限制割賦シ一大區ニ關係スルノ費用ハ其大區限制割賦スヘシ總テ其費用ヲ外區ト混浴シテ割賦スルヲ許サス

第十七條

一 費用取立ノ節ハ區長檢査ノ上一小区一ヶ町村限費用メ辻割賦高共明細取調縣廳ヘ伺指令ヲ待テ各區町村ヨ取立ヲ許スヘシ

無號 明治五年九月

區長戸長職務章程

第一章

區長ハ戸籍ノ編制ヲ明ニシ地券ノ事務ヲ擔當シ布令ヲ區内ニ傳達シ正副戸長ヲ指令シテ全區能ク布令ノ意ヲ領解シ遵守シテ背犯ナ

カラシムルヲ要ス且區内ニ爭訟起ルカ如キハ能其情實ヲ問悉シ懇ニ辨說解諭シ勉テ和融セシム凡テ士民ノ願伺届ハ正副戸長ヨリ直ニ縣廳ニ申狀スト雖壅滯遲緩ノ弊アルカコトキハヨク督責鞭撻シテノ事宜ニヨリ正副戸長ニ關セ直ニ縣廳ニ申狀スヘシ
但戸籍ノ出入人口ノ増減及ヒ寄留旅行等ノコトキハ月束ヲ以テ正副戸長ヨリ差出サセ詳悉點檢シテ縣廳ニ上達ス

第二章

權區長ノ掌ルトコロ區長ニ亞リ若シ區長他方ヨ出張スルカ欠員ノ時ハ諸般ノ文書ニ其譯下紙ニ認メ其小区關係ノ權區長一名ヲ以テ代理スルモ苦シカラス

但其小区ノ權區長病氣若シハ欠員ノ時ハ隣區ノ權區長ヲシテ攝務セシム正副戸長之ニ倣フ

第三章

第六號 明治五年八月

元額田縣

兼テ相渡置候戸長規則ニ記載有之通非命ニ死候者ハ即刻届出可受

檢視ノ處間ニハ揚火等ニテ過テ死失致候者有之候ヲ即剋不屈出村
方モ有之甚以不都合ノ事ニ候以來右休非命ニ死候者ヲ病死同様取
計或ハ取隠シ埋葬等致シ外ヨリ於相願ハ戸長ノ可爲越度候條此旨
可相心得候事

無號 明治六年十一月四日

貫属以下平民ニ至迄管内限リ轉往同居等イマシ度輩自今願ニ不及
双方熟談之上届書可差出候事

但寺院轉住之類ハ此限ニ非ス候事

第五十四號 明治七年六月

管下四民居住地門戸毎属族職名人員等揭示之儀是迄區々ニ相成居
不体裁ニ付以來別紙雜形ニ照準各大区々戸長於テ町村一様ニ取調
夫々爲張出可申此旨相達候事

雜形 竪七寸五分 伍板

第何大區何小區何町

何番地居住

屬族 何屋何渡世

愛知縣何官

父子兄弟叔又ハ附籍人

諸官省等何官

何

或ハ第何大區何小區

伍戶主之外ハ各地方出仕ノ者
ノ姓名記載以下ハ家族ノ内
ハ算入

家族 何人

内 男何人 女何人

外 僱 何人 婢 何人

井幾々

合何人

何組

第何大區何小區何町

何番地居住

屬族

何

何國何神社何官

父子弟伯叔又ハ附籍人

何

或ハ愛知縣何大區

但書上ニ同シ

家族

井幾々

但書上ニ同シ

合何人

第何大區何小區何町

何組何番地寄置

屬族

何

愛知縣何官

某

何地方何官 或ハ近衛兵 徵兵番人

父子弟伯叔又ハ附籍人

何

但書上ニ同シ

家族

但書上ニ同シ

同居 或ハ寄留

属族

何

但戸主ニアラザレバ 家族ノ内ヘ算入

家族

但書上ニ同シ

何地方何官

并幾

合何人

第六十一號 明治七年七月

正副太區長正副戸長職掌章程

正副太區長

諸官省公布及本縣頒令ノ旨趣ヲ體認シ區内一切之事務ヲ擔當シ人民ノ願伺届等諸規則ニ照準故障ナキハ直ニ檢印壅滞之弊無之様百般便宜ニ取扱ヘキ事

戸長

諸市街ヲ各町村ヘ配達シ一小区内ノ事務ヲ擔當シ人民ノ願伺届等諸規則ニ照準檢印シ百事太區長ト協議取扱フヘキ事

副戸長

職掌戸長ニ亞キ各町村之事務ヲ懇切ニ可取扱事

伍長

帶ニ其伍下ノ者ニ別テ懇切ヲ盡シ互ニ協救親睦スルヲ要務タリ

又町村限リ急務之諸調向遷延スルコトアラハ其一町一村ノ不調ト可相成依テ事機ニ依リ正副戸長ノ職ヲ助クヘキ事

正副大區長正副戸長事務章程

第一章

正副大區長時々正副戸長ト勸導ノ方法發覺牧畜及開墾等ノ策ヲ協議シ其他事理允當實際施行スヘキハ事ノ細大ヲ不撰具狀スヘキ事

第二章

諸官省公布及本縣頒令規則違犯スル者アレハ速ニ申出ヘキ事

第三章

凶荒水火病疾等凍餒ニ逼ル者アレハ正副戸長協議シテ救助ノ方法ヲ申出ヘキ事
但遊惰放逸ニシテ困窮スルモノハ督責ヲ加フヘシ

第四章

争訟起ラハ其原因ヲ尋テ道理ヲ推テ説諭シ和融スルコトヲ得ヤソハ申出ヘキ事

第五章

諸入費一切ノ課出ハ民費出錢規則ニ照準可取扱事

第六章

布達等縣廳ヨリ各區會所請正副大區長へ達シ區長ヨリ戸長へ傳布シ戸長ヨリ各町村副戸長へ順達スヘシ租民費規則第八條照準スヘキ事

但正副區戸長門戸等ニ表示シ區内ノ者ヲシテ覺知シ易カラシムヘシ

第七章

孝子義僕力田奇特ノ者及ヒ鰥寡孤獨廢疾等平生注意シ窮民ノ憫ム

ハノ行狀ノ嘉スヘキハ正副區戶長協議ノ上進署ヲ申出ヘキ事

第八章

橋梁堤防ノ破潰官道街路ノ便宜等常ニ注意スヘキ事

第九章

郷社社祭禮ノ節神輿巡行栢轎ノ品栢用ヒ無益ノ入費ヲ掛ケ間敷事

第十章

谷町村學校ヘ時々出席シ生徒ヲ鼓舞シ學業ヲ勵マヌヘキ事

第十一章

戶籍點檢ノ時ニ當テハ例則ニ照シ書式ニ準シ戶數人員死生出入等
詳明誤脱ノ弊有ヘカラサル事

第十二章

戶籍ノ加除生死ノ届其他諸事取調等各町村副戶長調査ノ上月長
出シ戶長事實ヲ檢シ文字之誤脱ヲ訂シ取束テ正副區長ヘ送ル區長

則各小區ヲ經テ尙テ檢點シ縣廳ヘ出スヘキ事

但復籍ノ者アレハ就産ノ方ヲ立再ヒ流離セシムヘカラサル事

第十三章

諸願届等ノ章程ハ願書式アリ日用細事ノ條件ハ斟酌照準シ取扱フ
ヘキ事

第十四章

人民ニ對シ誠實ヲ旨トシ諸事穩和ニ其便利ヲ得セシムヘキ事

第十五章

出火洪水ノ節ハ速ニ出張指揮シ其事由ヲ明細ニ取調正副長連印シ
速ニ届出ヘキ事

第十六章

神葬祭ノ節祠官掌事故アレハ正副戶長ノ内喪主ヲ助ケ葬祭ノ事ヲ
取扱ヘキ事

第十七章

生死出入ノ事アソハ速ニ籍ニ登テ加除スヘキ事

第十八章

區中諸吏ノ印鑑ハ勿論町村中戸主ノ印鑑ヲ取集メ且町村繪圖地券帳等所藏シテ他日ノ照準ニ供スヘキ事

右

正副區戸長ノ事務タリ威權ヲ張テ其職之趣旨ヲ不失同心協力實直勉強シテ各其職ヲ盡スヘキ事

第二百二號 明治七年十一月

僧尼族籍定之儀ハ各自其原籍ニ復ス可キ御趣意ニ有之原籍不分明又ハ無據復籍ヲ不望向ハ現在地ニ別ニ本籍相定若シ現在地ノ外ハ本籍相定度望之者ハ一旦現在地ニ定籍之上其地ヨリ望之地ニ送籍致ス可キ御布達ニ候處追々族籍定届出候内原籍明瞭之分モ復籍之

者無之本籍モ不判定現在地何村編入ト而已届出候者不少至御布達誤解ノ向相見不都合ニ候條向後定籍ノ者ハ勿論既ニ届辭ノ内御布達ニ觸レ候分ハ更ニ定籍届出候様可致此旨相達候事

無號 明治七年三月

各大區正副區長

今般布告布達配達方ヲ始諸事便利ノ爲自今各大區々長ニ於テ左之通り月番相立候條此旨和心得兼テ順番ヲ設各區會所ニ可相請事但本月ノ儀ハ來ル廿二日ヨリ相請可申候事

月番割

- 第一大區ヨリ 第四大區マテ 正副區長ノ内 一名
- 第五大區ヨリ 第七大區マテ 同 一名
- 第八大區ヨリ 第十一大區迄 同 一名

第十二大區ヨリ 第十五大區マテ 同

六百四十三 一名

無號 明治七年十二月

都大區正副區長

正副區長任免之節月給日割給與之備自今任免共辭令拜受ノ日ヲ以テ給與可致管ニ付爲心得此旨相違候事

第廿八號 明治八年三月

今般等外五六等被廢止候ニ付明治七年五月當縣第四十六號ヲ以相違置候區長准等日當表中別紙之通改定候事

但現今之戶長准二等ハ准一等准三等ハ准二等准四等ハ准三等准五六等ハ准四等ト可相心得事

別紙

准一等	准二等	准三等	准四等
月給 四十五錢	月給 三十五錢	月給 三十錢	月給 二十七錢
役名 區長	役名 區長	役名 副區長	役名 副區長
全	全	全	全

第八拾二號 明治八年六月
 各町編戶帳公撰入札法區々之取計向モ有之不都合不掛依テ別紙之
 通確定候條此旨更ニ相違候事
 正副區長ノ任ハ下情ヲ上通シ上意ニ下達シ政府百般ノ施行ニ應
 々人民諸事關請願持仰ニ區村ノ榮枯盛衰ニ關スル一大緊要ノ職務
 爲テ熟識公正忠實ノ人ヲ擇ハサシ可ラス然ルニ從前ノ選舉或ハ其
 當ヲ得スシテ未ダ弊害ヲ免ンサル者アリ故ニ今般更ニ選舉ノ方法

六百四十四

ヲ定メテ以テ各區各村ニ示ス區村ニ於テ其能ク一己ノ私情ヲ去リ
公平無偏ノ心ヲ以テ一區一村ノ條約ヲ定メ勉テ向來ノ進歩ヲ慮レ
第一條 正副區長并正戸長ハ當分官撰ヲ以テ平素ノ例トシ臨時區
長又ハ副戸長以上ノ投票命スルコトアルヘシ
第二條 副戸長ハ左ノ入札法ヲ以テ撰舉セシム
第三條 副戸長ノ入札ヲ爲スルハ豫メ期日ヲ定メ少クハ五日日前ニ
正戸長披所ニ達シ入札ノ當日其村內役場ニ戸長ノ臨席ヲ乞ヒ當
日入札函ニ投票スヘシ
第四條 正戸長ハ入札函ヲ面前ニ備ヘ置キ人民ノ投票畢リタルキ
人民ノ目前ニ於テ入札ヲ開封シ其入札ヲ受タル人名ヲ無漏帳簿
ニ記載シ其第一第二第三ノ多票者ヲ願書ニ記載セシメ願文中ニ
右三名ノ中縣廳ノ撰撰ニ任スヘク且本人貢租其他引負是アル節
ハ村內一同辨償スヘキノ旨ヲ書載區長與印ノ上縣廳ニ郵送スヘ

シ
第五條 若副戸長數名ナリ時ニ入札スルキハ一名ヲ擇ムコトニ三
名宛ノ割ヲ以テ人員ヲ增加記載スヘシト雖モ二名以上ニ至リ割
合ニ増加スヘキ入札人名ナキハ不足減少ノ儘記載スヘシ
第六條 副戸長ノ入札ニ當ツテ左ノ五種ノ者ハ副戸長ヲ撰舉入札
スルノ權ナキモノトス
第一 滿十五年以下ノ年齢ノ者
第二 但後見人アル者ハ後見人ヨリ入札スルハ許シカラス
第三 戸主ニ非サル者
第三 婦人
第四 不動産ヲ所有セサル者 不動産ハ家藏畑畑類ヲ云
第五 犯罪ニテ懲役一年以上ノ刑ヲ受ケ放免ノ滿三年ニ至ラザ
ル者

第七條 右投票ノ節一村不正ノ入札ヲ爲スガ或ハ其人ヲ得サルト
是是此 多引引此大撰ヲ被毀シ更ニ官撰ヲ爲スアルハ

第四 正副區長領限カテハ

第一條 正副區長並正戸長ノ在職年限ハ當分之ヲ定メス

第二條 副戸長年限ハ一年ヨリ短カラス四年ヨリ長カラサル年限

チ一村協議會定條約書製作後戸長與印入上其區長出區長檢
印ノ上通シ通シ振所ニ置キ後証シ一通ヲ下渡スヘシ

但此條約アリト雖モ事故アリテ轉死スルハ制外ナルヘシ

第三條 條約期限ニ至リ尙再ヒ入札撰舉ニ當レバ更ニ條約ノ年限

ハ踐行ルニシテ入札撰舉ニ當レバ更ニ條約ノ年限

右ノ條約今在職ノ區長ハ更ニ變更スルノ權ニ無之以來人撰ノ節施

行キ難キ事點兵尙來分明無偏入撰方法ヲ確定スルニキ端緒ヲ目

今ニ定スルモノナレハ誤解等無之様施行スヘキ

管内人民他管下等へ移住候節送籍證書式以來別紙之通致改定候條
各區内無波至急可相違候事

別紙

華士族神官僧侶戸主

送籍 釋紙西ノ内紙之内

愛知縣管下第何大區何小區

尾張 三河 國何郡何村町何番地居住

屬族

養父何某亡

但存命ナレハ記載ニ不及
或ハ何某附結入ハ同也

存命ナレハ

何 當何年何月 某

何國何郡何村町住屬何某亡何女

何 何 同 某

同上

妻 何 同 某

長男 何 同 某

長女 何 同 某

以下準之

氏神何社

寺何國何郡何町何宗何寺

右之者今般御縣へ貫屬替御許可ニ付其村何番地へ移住致度旨申立候ニ付當方除籍ニ致候條自今其村へ入籍御取計有之度仍テ送籍候也

但神官僧侶戸主ノ分文休掛酌之事

右村

何年何月 副戸長 何 某 印
戸長 何 某 印

何縣御管下第何大區何小區
何國何郡何村

正副戸長 御中

前書之通相違無之候也

正 區 長 但一名 某 印

何 某 印

裏書 但華士族神官僧侶ニ限リ

表書之通相違無之者也

何年何月

愛知縣 應 印

平民但華士族神官僧侶家族ノ分準之

送籍證 華士族神官僧侶戸主ノ分ナリニ管內ナレハ本文照

愛知縣管下第何大區何小區
尾張國何郡何町何番地居住
三河國何郡何町何番地居住

農 實父何某亡 但同上
商 實父何某亡 但同上

存命ナレハ 父 何 同 某
何國云々同上 母 何 同 某

氏神 但同上 以下準之

右之者今般其村何番地へ移住或ヒハ屬族何某妻ニ差遣度旨届濟
ニ付當方致除籍候條自今其村へ入籍御取計有之度仍テ送籍候也

右村町 副戸長 何 某 印

年月日 戸長 何 某

何縣御管下第大區何小區

何國何郡何町 但 他管下之分

第何大區何小區 但 管下之分

正副戸長御中

前書之通り相違無之候也

愛知縣管下何何大區

但管下ナレハ副區長何某トノ記載

但一名 正副區長 何 某 印

無號 明治八年六月

各大區正副區長

平民分家願之儀是迄其都度々々縣廳へ差出來候處自今該區事務扱

所ニ於テ承リ覆月纏之部々調置可差出此旨相達候事

六百五十三

同八年七月決

何年何月何日

管内形勢表

第何大區

時候	動靜
暖寒	
天變	學校
	衰盛
地異	作物

右之外一般風俗人情ニ關スル件モ異情有之存ハ可成詳細可相認候事

第八十九號 明治八年六月

人民送入籍屆書中年齡記載方之儀當幾年幾ヶ月ト而已書記候而者
 出生年月日不詳最モ男兒タル者常備後備國民軍共定規ノ如ク每歲
 取調ニ付而者別而明瞭不成トキハ其期ニ臨ニ調方指支無益ノ手數
 而已ナラス中ニハ心得違テ釀生シ其事由曖昧ニ涉終ニ犯則ノ罪科
 ニ罹リ候而者實ニ惘然ノ至ニ付自今都而出生年月日ヲ明瞭ニ記載
 上可届出當人者勿論區戸長ニ於テモ屹度可致注意此旨相達候事

第百七十壹號 明治八年十一月廿五日

副戸長月給并旅費等は迄區費ヲ以テ支給候所本年十二月以後者該
 町村費ヲ以テ支給可致事

無號 明治八年

人民生死縁組送入籍其他扱所ニ於而月纏ヲ以上納仕來リ候分兎角

六百五十四

差出方遷延ニ打過戸籍加除ニ差支不都合不勘依之自今全月分必翌月五日迄ノ内ニ該地ヲ發シ郵送相納候様可致注意此段相違候事但毎小區分之儀ハ從前之通リ

第百七十六號 明治八年十二月八日

正副區長即區取締正副戸長旅費日當之儀來ル九年一月一日ヨリ左之通改定候條此旨相違候事

旅費規則

第一條

- 一 並旅行ハ一日十里計ト定メ端里數ハ滿一里以上一日分ノ日當ヲ支給ス
- 一 往返五里未滿ハ出張巡回共日歸ナレハ日當給セス一泊スレハ往

返ニテ並旅行日當ノ三分ノ一ヲ給ス

一 往返五里以上六里未滿ノ地へ出張スルキハ日歸一泊ノ別ナシ往

返ニテ並旅行日當ノ半數ヲ給ス

一 往返滿六里以上十一里未滿ノ地へ同斷ノキハ同ク一日分ノ日當

ヲ給ス

一 滿十一里以上十二里未滿ノ地へ出張ノキハ同二日分ノ日當ヲ給

ス

一 何レモ滞留スレハ滞在日當ヲ給ス

第二條

一 巡回ハ一日五里結ト定メ端里數ハ並旅行ニ準ス

一 巡回ノ名義ヲ以往返滿五里以上ノ地へ派出スルキハ一日分ノ日

當ヲ給ス

第三條

旅費概則表

旅費區別	並旅行十里詰	巡回五里詰	滞在一日
正副區長	壹圓	六十錢	三十三錢
正副區取締長	八十錢	五十錢	三十錢

第四條

一 並旅行ハ縣廳或ハ支廳ニ往復ノ節ニ限ルヘシ

第五條

一 里程測度ヲ定ムルハ正副區長ハ該大區扱所所在ノ地正戸長ハ小區扱所所在ノ地學區取締副戸長ハ各自居住ノ地ヨリ縣廳支廳地元標迄ヲ以測度トス

第六條

一 正副區長學區取締及ヒ戸長等區内巡回ノ節ハ甲ノ村ヨリ乙ノ村ニ移ルトル甲乙間ノ里程詳細帳記シ該所副戸長ノ檢印ヲ受置旅費

勘定仕上ノ突合物トスヘシ

第百八十三號 明治八年十二月廿五日

正副區長以下旅費日當之儀本月八日當縣第百七十六號ヲ以相違置候處今般太政官ヨリ御達之趣有之ニ付右旅費規則中第三條旅費概則表左之通改定候條此旨可心得事

第三條

改定旅費日當表

職名	並旅行十里詰	巡回五里詰	滞在一日
正副區長	金八十錢	金五十錢	金三十錢
正副區取締長			

第百八十四號 明治八年十二月廿六日

婚姻又ハ養子養女ノ取組若クハ其離婚離縁假令相對熟談ノ上メリ

凡雙方之戶籍登記セサル内ハ其効ナキ者ト看做スヘク旨御達之趣
モ有之候條右等之届方等開ノ所業無之弊精々可致注意此旨相違候
事

第百八十五號 明治八年十二月廿六日

明治七年五月當縣布達第四十六號民費出錢規則第六條三行中學校
ノ二字ハ來明治九年一月ヨリ取消ノ候條此旨相違候事

旅行

第三十四號 明治七年四月

伊勢參宮ヲ始メ諸神社ニ爲參拜他出候者從來拔參リト唱ヘ親族村
役人等ニモ無届ニ致シ置於途中旅費遣果ヲ終ニ道亡之罪科ニ陷リ
候者往々有之惘然之至ニ候條於區戶長厚致注意自今右様之者無之
様毎戶懇切ニ諭聞置可申此旨相違候事

婚儀葬祭

無號 明治六年二月

一婚禮葬祭等之儀ハ身分ニ應ニ相當之取賄ハ可有之筈ニ候得共虛
飾仕來等ニテ無益ニ米金ヲ費シ候弊害不尠凡子初テ生ル、ヤ親族
縁故比隣近村之者ヲ集メ宴ヲ開其饗ヲ盡シ又年頭破魔弓飾羽子男
ハ端午女子上巳且ツ男女五七歳ニ至レハ紐解袴着杯ト種々之カ稱
ヲ爲シ各貧富之分ヲ不弁祝宴贈答ヲ盛ニシ又年頃ニ至リ聲取嫁入

等格外之調度衣類ニ不相應之費用ヲカケ其上五年或ハ十年間ハ里方ニリ衣類ヲ始メ諸品ヲ給與致シ之カ爲メ一家之産ヲ傾ケ又家祖之追福或ハ死者ヲ哀傷スル毎ニモ是亦同様打寄酒饌ヲ供シ葬祭ノ本ヲ忘レ分ヲ失シ終ニ身代ヲ願取候者有之哉ニ相聞以之外之事ニ候條自今右様之風習決メ致間敷候就夫祝儀又ハ供物其外暑寒之音信ニモ贈答ノ多寡醜美ヲ競候儀ハ不可然只近親懇友之信義ヲ以交候ハ格別是迄之齋弊一洗致シ家ヲ富シ國力ヲ増之必懸急務ニ付右之件々万一背クニ於テハ屹度申付方モ可有之條此旨固可相守者也

第百八號 明治六年四月

婚禮等之儀ハ身分ニ應シ相當ノ取賄ハ可有之筈候得共格外之調度不相應之費用ハ決而致間敷旨等第三十七刻ヲ以布告シヨヒ置候處郡村ニ寄嫁入之節通行ノ村落へ菓子酒等差贈若其仕向不致節ハ沿路之者罷出通行ノ障致候者有之哉ニ相聞村道ト雖モ天下之公路ニ

候處右体音物ヲ以令通行或ハ彼是通行人之差障ヲ成候儀不都合之事候條向後必得違音物差出候者并賞請候者又ハ差障致候者於有之ハ吟味ノ上屹度申付品可有之候一村一村落之内古屋買請毀取候節ハ一村中へ酒肴等差出若不差出節ハ道路運送ノ妨等致候者有之哉ニ相聞且從前盆中ノ夜分ハ盆起メト唱遊戯ノ餘種々粗暴ノ所業ニシヨヒ候者有之趣ニ相聞以之外ノ事候條向後右体ノ所業於有之ハ是又吟味ノ上屹度申付品可有之候

復箱人 附乞食

第十號 明治六年十二月

脱籍無産之徒取締之儀ニ付而ハ道々御布告之趣モ有之候處動モスレハ邊隅ノ小民トモ今日ノ活計ニ苦ニ徒ヲニ籍ヲ脱シ市在ニ徘徊シ門戸ニ立或ハ路傍ニ座シ錢食ヲ乞候者等第一人民自由ノ權利ヲ失シ無謂庶人ニ巧憐スルハ人倫上可辱ノ至故ニ右等ノ者ハ夫々取

謂其本籍ニ復サセ其者親戚ハ勿論其村町ニ於テ厚ク教諭ヲ加ヘ相
當ノ産業ヲ授ケ再ヒ出籍不致様注意スヘキ事肝要也然ル處中ニハ
心得違之者有之身元相應タルニ營業之余暇道路ニ立出住來ノ旅人
ニ錢ヲ乞受更ニ身ノ辱トモ思ハス從前非人同様之業ヲ致候者モ
有之哉ニ相聞ヘ右ハ畢竟區戶長共不注意ヨリ差起候儀ニ付自今致
違背候者於有之ハ取糾之上夫々相當之所置可申付事

第十二號

明治六年十一月

乞食取締ノ儀ニ付而者昨壬申年九月本年三月兩度及布達置候處今
以等閑ニ相心得候向モ不少哉ニ相聞ヘ以ノ外ノ事ニ候抑乞食ノ減
少セサル所謂ノモソハ故ナク錢食ヲ與ル者アルヨリ與ノリ是全ク
人ヲシテ自由ノ權利ヲ失ハシメ倫理ヲ亂ラシムルモノナリ唯一時
ノ愛ニテ其者終身ヲ愛スルニ非ス是仁ニ似テ仁ナラス却テ不仁ト
モ可謂事ニ候條自今人ノ門戸ニ立致巧憐候者ヘ一飯一錢ヲリトモ

施與候雖有之ハ見付次第其家ノ附籍ニ申付又ハ歸傍ニ座伏シ錢
ヲ乞候者其儘差置候節ハ其受持町村ノ入籍ニ可申付候此旨和心得
不都合無之様可致事

第十四號

明治七年二月

管内四民脱走家出等ノ者五十日未滿ハ不及届出鼠戶長迄可申出候
此旨相達候事

但本文滿期之上ハ直チニ可届出自然等閑ニ致シ置候者有之節ハ
屹度可及處分候事

第二十四號

明治七年三月

復籍人遞送ノ儀ハ御規則モ有之兼而及布達置候處近來護送ノ際屢
致逃走候段届出候向有之不容易事ニ候右ハ全ク宿村役人ハ勿論護
送入等不行届ヨリ生シ候儀ニ付今後右様ノ筋有之候ハハ相當ノ可

及處分候條不取締無之様屹度可相心得事

六百六十五

第百三十七號 明治七年十二月

各府縣ニ於テ處刑濟其他復籍人遞送之節操替帳紙數ノ不足ナルヨ
リ驛村葉紙ニ書載繼立候處遠路手數ヲ經ニ至リ或ハ紛散シ或ハ所
名ノ明瞭ナラサルヨリ其管應到若ノ後旅費償却ニ差支候等ノ儀モ
有之候テハ後日不都合ヲ生候ニ付管内驛村正副戸長及陸運會社其
他右取扱ニ關スル者操替金員及所名共明細相認繼立方可取計此旨
相達候事

第五號 明治八年一月

府縣遞送人諸入費償却方之儀ニ付内務省ヨリ達之趣有之道筋操替
金ハ其管轄廳ニ差送り各廳ニ於テ操替候宿村ニ渡方取計候ニ付而

ハ遠路引渡之者ハ所轄數箇ニ涉リ彼此管下之區分相分兼差支候ニ
付自今遞送入費操替帳ニハ愛知縣下何國何郡何驛村ト明瞭記載繼
送候様可致此旨相達候事

第五十四號 明治八年五月

失踪逃亡人之儀是迄家出當日ヨリ五十日間ヲ經テ届出來候所自今
家出當日ヨリ十日間ヲ限リ必可届出此旨更ニ相達候事

第七十四號 明治八年六月 内務省布達乙第六十八號

別紙之通内務省ヨリ被達候條右ニ照準賄方等取計宿注ニ於テモ注
意可致此旨相達候事

府 縣

府縣預入及脱籍無産之者從籍并ニ護送之囚人等途中賄料之儀退々

六百六十六

大藏省達之旨モ有之候處目今物價高直難澁之趣相聞候ニ付今度左
之通改定候條自今右ニ照準テ賄方區々不相成様可致此旨相達候事
但本文護衛人ニテ注意可致勿論ニ候得共宿主共ニ於テモ心得
違無之様兼テ各管内ニ可相達事

明治八年五月廿八日

壹人ニ付

酒二賄

金拾三錢

但臥具點燈費其他手数料共

壹一賄

飯米菜代

金五錢

但手数料共

家祿附奉還

明治五年六月

元額田縣

無號 明治五年六月

士族告諭

今般士族一般へ別冊之通告諭相成候條區中所在之士族へ可相達事
士ト云農工商ト云其業トスル所ニ就テ名ヲ分ツノミ八種ニ區別有
ニ非ス然ルニ因襲ノ久キ士ハ自ラ士農工商ハ自カラ農工商トナリ
遠ニ人種ノ異ナルカ如ク尊卑途ヲ異ニテ勞逸動ヲ同フセサルニ至
ル且他ノ三民ノ如キハ一朝業ヲ改ムレバ名モ亦從テ變ス所謂業ト
スル所ニ就テ名ヲ分ツノミ獨リ士ニ至テハ則不然俸祿世ヲ累テ常
職務ヲ同フシ大過失大失錯アルニ非レバ祿ヲ削リ職ヲ褫フノ罰ア
ルコトナシ以テ然ル所ノ者ハ護民ノ任重ク廉耻ノ破ル可カラサレハ
也然ルニ昇平ノ弊名有テ實ナク其職ニ任ヘサル者モ他ノ三民ノ勞
ヲ奪ヒ恬トシテ怪ムヲ知ラス 朝廷深ク其弊ヲ察シ維新ノ際道ニ
攝錄門閥ヲ廢シ隨テ公卿諸侯ノ族ヲ一ニシテ士ノ常職ヲ解キ諸藩ノ

版籍奉還ヲ許シ其建議スル所ノ歸田祿券之方法ヲ許シ華士族ノ輩
 脫刀ヲ許シ平民ト互ニ婚姻スルヲ許シ子弟厄介ハ民籍ニ編入スル
 ナ許シ士族士族ヲ雇使スルヲ許シ在官ノ外農工商ノ職業ヲ營ムヲ
 許ス此數ノ者數百年來成規例格アリテ毫モ變移ス可カラサル者ナ
 リ然ルニ今盡ク之ヲ解キ之ヲ許スハ四民權ヲ同フシ勞逸勤ヲ均ウ
 セシムル所以ナリ然レトモ華士兩族未ダ其理ヲ解セサル者往々有
 之如此者ハ編規ノ能ク移易スル所ニ非ス筆舌ノ能ク勸解スヘキ所
 ニ非ス唯親ク之ヲ形ニ示シ以テ自カラ感發セシムルニ若カスト是
 ニ於テ平民一般苗字ヲ用ユルヲ許シ乘馬ヲ許シ襦袴割羽織ヲ
 着スルヲ許シ彼穢多非人ノ如キハ名稱ノ如ク四民中ニ齒セシメサ
 ル者ナリ然ルニ其稱ヲ廢シテ平民トナス是一ハ以テ平民ヲシテ自
 カラ卑キニ甘ヒシメス一ハ以テ華士兩族ニ三民ノ蔑視ヲ可カラサ
 ルヲ示スナリ試ニ思ヘ嚮ニハ士ノ貴キ所以ハ我カ居ル位ハ平民俊

秀ノ者ヲリトモ登ルヲ得ス我カ若スル所ノ衣ハ平民鉅萬ノ財ヲ
 有スト雖モ服スルヲ得ス乘馬禁アリ佩刀制アリ彼レ之ヲ犯スヲ
 得ス今也天地之公法ニ基キ窳陋ノ風習ヲ洗滌シ平民以テ將相ノ位
 ニ登ル可ク士族以テ耕漁ノ業ニ服ス可ク賢愚判然區域ヲ分チ人々
 ナシテ感憤興起物理ヲ窮メ智工ヲ開ク途ニ就カシム且往時士ノ
 恃テ以テ三民ノ上ニ位セシ者ハ特ニ護民ノ名アルヲ以テ也今也國
 勢ノ進歩ニ隨テ兵制ヲ一變シ海陸軍二省ヲ置キ別ニ募兵ノ法ヲ設
 ケ材幹用ニ任ル者ヲ擇ヒタマヘハ護民ノ權已ニ我ヲ去ル彼ノ視テ
 以テ卑トシ賤トセシ者已ニ我ト其權ヲ同ウス我何ヲ恃テ傲然三民
 ノ上ニ位セシヤ是理ノ昭々タル者也天ノ人ヲ生スルヤ賦スルニ爲
 スコアルノ性ヲ以テス彼ニ短ナルモ是ニ長スル所アリ是ニ短ナル
 モ彼ニ長スル所アリ賢者ハ智ニ食ニ不肖者ハ力ニ食ニ自ラ適當ノ
 務アリ今賢者賢ヲ恃テ勉メスハ其賢タルノ益ナシ不肖者其不肖

者其不肖ヲ蓄リテ勉メスハ徒ニ天物ヲ耗損ス如此キハ管天ノ賦性ヲ盡サ、ル而已ナラス從テ多少ノ弊害ヲ釀成ス假令ハ邑ニ一人ノ懶民アソハ一邑ノ人ヲシテ懶ナラシム市ニ一人ノ惰民アソハ一市ノ人ヲシテ惰ナラシム一粒ノ粟一尺ノ布皆多少ノ工ヲ積ミ多少ノ力ヲ費シテ成ル所ナリ我之ヲ受ルノ權ナシテ受ク可キニ非ス今天下九十餘万ノ華士族皆祖先ノ餘功ニ食ム者ナリ之カ爲ニ三民ノ勞ヲ奪フ其ノ幾許ソヤ天下何ノ餘力アリテ強大ヲ致サン天下何ノ餘財アリテ賤富ニ至ラン故ニ朝廷今日ノ急務ハ華士族ヲシテ別テ產業ヲ授ケ三民ト同ク自ラ其智力ニ食マシムルニアリ去歲藩ヲ廢シ縣ヲ置キ分合ノ制己ニ定リ一縣ニ一縣ノ實屬ヲ統ヘ其縣々卒ノ中功終身ニ止ル者ハ民籍ニ編入シ自ラ世襲スル者ハ士籍ニ加ヘ屬族ノ分類チ一ニシタマフ願フコト將ニ定テ授産ノ方法ヲ施行アルヘシ士族タル者宜シク思フヘシトヒ我祖國家ニ勞アリシ

モ己ニ累世ノ賚ヲ受ク其功勳ノ報己ニ斬クヘシ然ルニ尙産ヲ授クルノ議アリ皇恩優渥ナリト謂フヘシ我將ニ其好ム所長スル所ニ就テ後來活計ノ方向ヲ定メ令發スルノ日ニ當テ速ニ其途ニ就クヘキノ方法ヲ講スルヲ以テ務トスヘシ我縣實屬ノ如キハ大體倨傲ノ風無シ御主意ヲ遵奉シ能ク産業ヲ治ム可キト雖モ萬一其務ヲ知ラサル者アソハ特ニ一縣ノ失體ノミナラス亦朝廷ノ恩意ニ背クナリ故ニ茲ニ告諭ス士族一般此意ヲ了解シ一般ノ糊口ハ勿論尙ホ志ヲ遠大ニ馳シ物ヲ開キ務ヲ成シ以テ國家隆盛ノ運ヲ贊補ス可キ也

第九號 明治七年一月廿八日

凡ソ士ノ名稱ヲ帶シテ職ヲ世々ニスルモノ其故何ソヤ抑往昔ノ民タル者事アルトキハ兵器ヲ携ヘ死生不測ノ地ニ臨ミ奮戰勇討シテ強敵ヲ破リ歸レハ則農タリ工タリ皆其本土ニ就テ業ヲ治ム是昔ヘ

ノ制也中古政權武門ニ歸シ變シテ封建トナリ武士ト稱スル者各其
 主ニ仕ヘ其政ヲ助ケ家門ヲ襲ヒ終ニ三兵ノ上ニ位シ祿ヲ世々ニス
 ルトトナレリ然ルニ大政維新遠ク郡縣ノ制ニ復シ廣ク海外ニ交通
 シテ其宜キヲ取リ外ハ以テ信義ヲ萬國ニ結ビ内ハ以テ門地ヲ廢シ
 テ賢才ヲ舉ケ益政道ノ明カナルヲ示ス於是乎列藩其大義ヲ重シ
 悉ク封土入民ヲ奉還シ士ハ常職ヲ解テ農工商ノ業ニ歸スルヲ許シ
 玉ヘリ故ニ兵ヲ徵スル士民ヲ問ハズ茲ヲ以テ之ヲ思ヘハ今日ノ士
 ハ従前ノ士ニ非ルト顯然タリ左ノハ常職ナキ者常祿アルノ理ナキ
 ハ素ヨリ言ヲ俟ス然ト雖ヒ數百年來因襲ノ久キ人々自活ノ道ニ慣
 レサルカ爲メニ今日ニ至ル迄家祿ヲ賜ヒ敢テ素餐ノ責ヲ問ハサル
 ハ早ク方向ヲ定メ自營ノ自途ヲ立ッヘシトノ思祿ニテ誠ニ無量ノ
 仁惠ナリ然ルニ猶資本ノ乏シキヨリ其ノ志ヲ遂ケ兼候者モ可有之
 哉トノ至仁ヨリ方今内外御費用ノ多端ヲ厭ハセテレズ格別ノ優

以テ今般公布ノ通百石以下家祿奉還ヲ許サレ夫々資金下シ賜ルヘ
 キ旨被 仰出候ハ實ニ難有 御趣意ニシテ則嚮ニ曰フ所ノ如ク身
 ニ常職ナク徒然座食ノ責ヲ免レサルニ斯ル思典ヲ蒙ルハ豈ニ無限
 ノ幸福ニ非スヤ實ニ肺肝ニ徹シ再生ノ思ヒヲナスノ秋也必此機會
 ナ失セズ謹テ家祿ヲ奉還シ各奮發勉勵シテ自營ノ業ヲ興シ上ハ
 朝恩ノ廣大ナルヲ仰キ下ハ子孫ノ保安ヲ計ルベシ萬一此大事ヲ輕
 シ唯目下一時ノ利慾ニ迷ヒ永久ノ基礎ヲ立テス或ハ資金ヲ遊惰
 奢侈ニ費シ或ハ因仍舊套ヲ墨守スルカ如キハ終ニ遊手無産ノ窮民
 ニ陥リ再ヒ家名ヲ興ス能ハサルニ至ラソ此時ニ當リ悲泣追悔スト
 雖及ハサルトモテ第一
 朝廷寛仁ノ御趣意ニ悼リ外三民ニ對シ可恥事ニ候條能ク時勢ヲ洞
 察シ親戚ハ勿論有志ノ者共互ニ協議シ銘々智力ノ限リヲ盡シ以テ
 永世不朽ノ目的ヲ立其方法ヲ微細ニ書記シ奉還願書ニ相副ヘ可差

出此旨及告諭モノ也

六百七十五

第百二十五號

明治八年七月十四日

大政官御達第百六號

使 府 縣

士族以下家祿賞典祿奉還可聞屆旨明治六年^{十二}月^{十二}第百二十五號ヲ

以テ及布告置候處詮議之次第有之奉還ノ儀當分差止候條此旨其向
可相違事

但此違書到達前既ニ願出候外ハ聞届不苦候事

民費

無號

明治六年九月

各 區 長

總テ民費ニ關スル金額出納課ニリ操替渡置退テ夫々取立之上返納
之仕例ニ候處右ハ從前御勘定仕拂等モ一々不行届付テハ自然猶豫
之金夥多有之右之内ヲ以操替致シ候得共即今諸御勘定皆濟途始末
候上ハ大數之豫備金決テ無之譯ニ付自今操替之儀難相成候條取立
之方法ハ每區適宜ニ任セ必時々償却致候様規則可相立此段更ニ相
違候事

第三十九號

明治七年五月

郡中村々諸調向ニ付役前ヲ始小前之内ニモ役場ニ寄合等之節食事
之爲メ米贈請等之入費ハ其品ニ寄村費ニ課シ候儀モ可有之候得共
酒肴ヲ相用ヒ候分村費ニ相立候村方モ間々有之哉ニ相聞不都合ノ

六百七十六

事ニ候素ヨリ諸調向ノ爲集會候儀者大切成御用ニ付酒肴等相用ヒ候而者取調向盛滯ニ涉ル而已ナラス其席へ不出ノ者共自然疑惑ヲ生シ候様相成候而者實以不相濟事ニ付自今右様ノ類村費ニ割賦候儀決テ無之様小前末々迄俱ニ可致注意此旨相達候事

第四十六號 明治七年五月

追々民費減省スルノ方法不取設候而者不相成依之郡費出錢概畧規則別紙之通相定候條小前末々迄厚可心得事

民費出錢規則

第一條

今般民費戸別出錢方法左之通相定候條一町一村限貧富ニ應シ等戸ヲ定メ一ケ年分表面ノ如ク出錢ス可シ尤一ケ年分一兩度ニ出錢候テハ却而指支之廉モ可有之儀ニ付表面之金額十二分ノ一宛毎月出錢ス可シ尤管内士民一般官員華士族借宅或ハ同居寄留之輩ト雖尼農工商雜業

居住スル其土地ノ人民ト異ナルコトナシ依テ其戸數無漏各等上下ノ區別ヲ定メ可申事

伍村費ニ課スル費用ハ此外ナリ依テ村中入費ハ各村限帳簿ニ明了ニ記載シ月末ニ至リ小前末々迄爲致熟覽疑惑異論無カラシムル爲メ小前惣代或ハ伍長等ノ檢印ヲ爲致置翌月四日迄之内毎小區戸長元へ取集入費之箇條檢査之上不正之廉無之上ハ其戸長ニ於テ改檢印ヲ押一小區分ノ惣計書拔大區長へ出シ一大區分取集大區長ヨリ縣廳へ上達スヘシ尤戸長檢印辦之村費帳ハ其都度早速其村々へ差戻シ置年末ニ至リ毎大區一ケ年分取纏メ縣廳へ差出可請檢査事

第二條

惣郡中割ニ可相立分ハ既ニ今般等戸ヲ定メ爲致出錢候儀ニ付右之外一切割賦不相成候事

第一等	上	百圓以上	第六等	上	十二圓	第十一等	上	四十八錢
	下	九十圓		下	九圓六錢		下	卅六錢
第二等	上	八十圓	第七等	上	七圓二錢	第十二等	上	廿四錢
	下	七十圓		下	四圓八錢		下	十八錢
第三等	上	六十圓	第八等	上	三圓六錢	第十三等	上	十二錢
	下	五十圓		下	二圓四錢		下	八錢四厘
第四等	上	四十圓	第九等	上	一圓八錢	第十四等	上	六錢
	下	三十圓		下	一圓廿錢		下	四錢八厘
第五等	上	廿圓	第十等	上	九十六錢	第十五等	上	三錢六厘
	下	十五圓		下	七十二錢		下	二錢四厘

右表面ノ如ク等戸ヲ定ムルハ第五等以上都テ富豪ノ者ヲ以テ可取調第六等以下第十五等迄從來出金ノ割賦方ニ比較シ等戸ヲ定ム尤細民ト雖ヒ上等ヲ望ム者ハ當入ノ可爲隨意事

第三條

等戸ハ人名簿ヲ製造シ明了ニ記載シ縣廳へ上達スヘシ檢査濟ノ上夫々下渡スヘシ事

第四條

等戸取調之儀者毎年一月盡日限別紙三號式之通表面ニ仕立副戸長ヨリ戸長へ差出戸長ヨリ大區長ト順次ニ縣廳ニ進達ス可シ

第五條

但今年初發之儀ニ付當六月限表面取調縣廳之檢査ヲ可請事
出錢取集方之儀ハ來ル七月ヨリ相始メ同月十日迄之内一月分取集縣廳へ可相納尤示後毎月右ニ準ス

第六條

正副區戶長給料廳中入費管内布告御用狀郵便稅各區會所各區振所學校其他郡中取締入費等懲罰賦ニ可相立分都而縣廳ニ於テ出納取計年末ニ至毎大區出納差引勘定一覽表ヲ仕立管内普シ布達セシメ過不足トモ小前未々迄爲致熟覽候事

第七條

年々過金積立ニ相成候分ハ毎大區其部ヲ分テ縣廳ニ備置萬一凶年或ハ非常等之節手當之用意ニ可備置事

但年々過金積立之員數ハ年末出納表ヲ以明了ニ可致布達事

第八條

大區長四名宛各區會所ニ相諮詢願伺届共下々方ヨリ差出分延滞不致樣速ニ上申シ指令濟之分郵便ヲ以至急達シ方可注意尤會所諮詢當番中ハ惣郡中之事務擔當スヘシ

但當番詰中爲宿代一日金三十錢ツ、被下候事

第九條

各區會所書記之者人當精撰之上四名ヲ置ヘシ尤事務多端コシテ増員ノ節ハ縣廳ニ中立許可ヲ可請事

但月給澄入ニ付四圓ト定ムヘキ事

第十條

正副區戶長共區用村用ニテ出廳之節ハ日當表面之通可相渡候事

第十一條

正副戶長共月給受取方之儀ハ毎月名簿ニ金員ヲ記載シ大區分ケニシテ二十日限り縣廳ニ可差出候事

但渡方日限ノ儀ハ縣廳ヨリ可相達候間當番區長共爲惣代受取夫々區内ニ分配致スヘシ

第十二條

此十二分ノ一

金何百何十何圓何十何錢

右ノ通本年六月ヨリ毎月十二日迄ニ取揃大區扱所ニ相納可申候事

何小區戶長

年号月日

何 某 印
何 某 印

縣令宛

第三号式

第何大區等戶出錢總計表

金何千何百何十何圓何十何錢

金何千何百何十何圓何十何錢

以下準右

合金何萬何千何百何十何圓何十何錢

一 小區
二 小區

此十二分ノ一

金何千何百何十何圓何十何錢

右之通本年六月ヨリ毎月十五日迄ニ取揃縣廳ニ相納可申候事

副長

年号月日

同

何 某 印

區長

何 某 印

縣令宛

番高何萬何千何百何十何圓何十何錢

現在戶數何千何百何十何戶

區戶長準等日當表

役名	準等	俸給	日當
區長	十二等	十四圓	五十錢
	十三等	十二圓	四十五錢
副區長	十四等	十圓	四十五錢
	十五等	八圓	四十錢
戶長	等外一等	七圓	四十錢
	等外二等	六圓	三十五錢
副戶長	等外三等	五圓	三十五錢
	等外四等	三圓	三十錢
同上	等外五等	二圓	三十錢
	等外六等	一圓	

一 每大區長一名副長二名但副長一名ニテ用便スルハ此限ニ非ス
 一 每小區戶長二名但一名ニテ用便スルハ此限ニ非ス
 一 每町村副戶長凡左之割合ヲ以之ヲ置
 但凡舊高三百石以下 等外六等一名
 舊高七百石以下 等外六等二名

舊高	戶數	準等
二千石	以下	等外五等一名
一千五百石	以下	等外六等一名
一千石	以下	等外五等二名
七百石	以下	等外六等一名
五百石	以下	等外五等三名
三百石	以下	等外四等一名
二百石	以下	等外五等三名
一百石	以下	等外四等二名
五十石	以下	等外五等七名

右概略見込

第五十五號 明治七年六月
 當縣第四十六號布告民費出錢規則第一條別紙之更正候事
 但地租改正之上ハ民費課ニ方法等可及再定依テ此規則ハ當分施行之儀ト可相心得候事

民費出錢規則

第一條

今般民費戶別出錢方法左之通和定候條一町一村限貧富ニ應シ等戶ヲ定メ一ケ年分表面ノ如ク出錢ス可シ尤一ケ年分一兩度ニ出錢候テハ却テ指支之廉モ可有之儀ニ付表面ノ金額十二分ノ一宛毎月出錢ス可シ

但村費ニ課スル費用ハ此外タリ依テ村中入費ハ各村限帳簿ニ明了ニ記載シ月末ニ至リ小前未々迄爲致熟覽疑或異論無カラシムル爲メ小前惣代或ハ伍長等ノ檢印ヲ爲致翌月四日迄之内毎小戸長元へ取集入費之箇條檢査之上不都合ノ廉無之上ハ其戸長ニ於テ改檢印ヲ押一小區分ノ惣計書拔大區長へ出シ一大區分取集大區長ヨリ縣廳へ上達スヘシ尤戸長檢印濟ノ村費帳ハ其都度早速其村々へ差戻シ置年末ニ至リ毎大區一ケ年分取經メ縣廳へ差

出可請檢査事

第五十五號 明治八年五月

明治六年一月一日ヨリ同年十二月三十一日迄民費課出ノケ條別冊之通ニ候條普ク人民爲熟知此旨相達候事

明治六年中尾三兩國民費課出調

郡拾六

大區十五

小區百四拾八

村二千五百八拾九

町五百六

反別九万九千三拾七町三反廿五步九厘

内三拾七町壹畝八步地不足

丙 田五万四千三百五拾六町四反三畝步三厘
畑四万四千六百四拾三町八反六畝拾七步六厘

大繩反別八千五百拾六町四反六畝拾六步二厘

丙 內九拾九町九反拾七步地不足

田二千三百八拾二町五反壹畝廿六步七厘
畑六千三拾四町四畝二步五厘

但元石高百二拾三万六千六百九拾四石三斗壹升九合二勺

民費總計

- 一縣廳并倉庫等營繕費 金百八十九圓八十錢
- 一德役場因糶合營繕費 金四百四十圓四拾錢九厘
- 一道路堤防橋梁修繕費 金五萬七千四百九十四圓拾七錢七厘五毛
- 一布告并布送類入費 金三萬四百七十八圓五十錢四厘五毛
- 一管内鼠達事付調費 金九千六百五拾圓三十六錢貳厘六毛
- 一諸御用付縣廳正副區戶長
一等出頭旅費 金貳萬五百五十七圓三拾貳錢六厘三毛
- 一區振所諸費 金壹萬六百九拾七圓四拾四錢四厘六毛
- 一正副區戶長以下之給料 金九萬八千五百六拾五圓六拾五錢四毛
- 一國幣社并縣社并鄉村社營繕費 金七千五百三十四圓十錢六厘九毛
- 一祭典并造拜式費 金壹萬三千七百卅七圓三十三錢六厘五毛
- 一縣社并鄉村社神官給料 金四千七百十九圓三十壹錢三毛
- 一檢見下組及內見其外一切費 金壹萬千貳百四圓六十七錢三厘八毛

- 一 貢米金取集ニリ納濟迄諸費并
貢米五里内運賃其外諸費共 金貳萬千十三圓五錢五毛
- 一 山林調費 金貳千三百七十圓八十九錢三厘九毛
- 一 里程調費 金三百四十六圓六十壹錢三厘壹毛
- 一 地券調費 金廿四萬七千六百八十壹圓六錢四厘六毛
- 一 戶籍調費 金三千四百六十八圓三十三錢三厘九毛
- 一 徵兵下調費 金九千四百八十七圓八十五錢三厘七毛
- 一 學校費 金五萬千五百三十壹圓六錢貳厘八毛
- 一 教院費 金貳百五十壹圓貳十九錢七厘
- 一 病院費 金九千八百四十壹圓七十七錢二厘五毛
- 一 道路掃除費 金千七百貳十九圓六十五錢壹厘貳毛
- 一 用惡水道費 金四萬四千三百五十貳圓九十七錢五厘七毛
- 一 暴漲水防費 金千八百九十三圓十五錢六厘三毛
- 一 井堰守給料 金五千百九十六圓十七錢五厘

- 一 消防入費 金千五百七拾七圓六拾四錢三毛
- 一 番人給料并諸費 金貳萬千八百七十四圓貳錢三厘三毛
- 一 時ノ鐘 金貳十五圓八十壹錢八厘七毛
- 一 貧民救育費 金二百九十壹圓五十七錢七厘二毛
- 一 驛村送リ人并助鄉費 金三百八拾二圓六拾八錢三厘
- 一 硝子燈費 金百圓七拾三錢
- 一 川々國役金費 金千百六圓五厘五毛
- 一 氏子調費 金六百七拾四圓八拾四錢九厘
- 一 山守給料 金二十九圓
- 一 社寺調費 金八圓二拾二錢二厘六毛
- 一 溜池堀營繕費 金七拾五圓四拾八錢五厘
- 一 猪鹿逐除費 金八圓五拾錢
- 一 揭示塲并鄉藏營繕費 金百二拾七圓五拾六錢八厘八毛

- 一 渡船費 金三圓九拾錢九毛
- 一 守札費 金五圓八拾四錢壹厘六毛
- 一 定使給 金八百二拾圓
- 一 各村臨時筆工料 金二拾八圓六十二錢五厘
- 一 各村役場諸費 金五千四百八拾五圓四十四錢六厘四毛
- 一 兩旁并虫送り費 金三百九十六圓九錢七毛
- 一 海岸備修費 金九百八十八圓五十三錢三厘六毛
- 一 官有地調費 金三十八圓十六錢四厘七毛
- 一 國役金 金千九百四十六圓六十四錢六厘
- 一 官林守給料 金二十圓六十七錢九厘七毛

合計金七拾萬四百四拾九圓四錢四厘六毛

愛知郡

大區二

小區二十二

村百六十四

町三百九十三

反別八千八百四十五丁四反六畝十三步 內拾九丁八反六畝四步地不足

內 田五千四百九十九町九反二十二步八厘

畑三千三百廿五町六反九畝十六步二厘

大總反別二千七百四十二町壹反二畝六步五厘

內 田七百三十五町壹反八畝廿六步四厘

畑二千六町九反三畝十步壹厘

但元石高十二万四千四百七拾三石七斗八升三合壹勺

民費

- 一 縣廳并倉庫等修繕費 金四拾九圓九拾錢六厘三毛
- 一 懲役場囚獄舍修繕費 同九拾五圓三錢四厘二毛
- 一 道路堤防橋梁修繕費 同九千九百七十五圓九拾四錢七厘八毛
- 一 布告并布達類入費 同八千六百二十九圓二十錢七厘

- 一 管内限違事ニ付調費 同五十圓七十四錢七毛
- 一 諸御用ニ付縣廳ニ正副 同五百四十三圓十三錢六厘
- 一 區戶長等出頭旅費 同千三百二十七圓四十四錢四厘七毛
- 一 區振所諸費 同壹萬四千五百十三圓二十三錢三厘壹毛
- 一 正副區戶長以下ノ給料 同千十壹圓三十九錢二厘三毛
- 一 國幣社并縣社并鄉社社營繕費 同千五百七十三圓五十錢四厘五毛
- 一 祭典并遙拜式費 同八百三十九圓六十八錢四厘
- 一 縣社并鄉社社神官給料 同三千八十四圓十七錢二厘
- 一 檢見下組及内見其外一切費 同二千七百九十三圓二十二錢七厘
- 一 貢米金取集ヨリ納濟迄諸費并 貢米五里内運賃其外諸費共 同百七十九圓卅錢九厘
- 一 山林廳費 同十四圓七十九錢五厘
- 一 里程調費 同二萬二千三百七圓八十錢一厘八毛
- 一 地券調費 同四百七拾二圓六拾壹錢四厘
- 一 戸籍調費

- 一 徵兵下調費 金三百三十四圓八十錢
 - 一 學校費 同壹萬五十五圓三十九錢三厘貳毛
 - 一 病院費 同貳十圓六十二錢三厘
 - 一 病院費 同貳千四百十六圓九十五錢四厘八毛
 - 一 道路掃除費 同百貳十圓貳十八錢八厘
 - 一 用惡水道費 同九千九百七十一圓七十九錢貳厘貳毛
 - 一 暴漲水防費 同四百八拾五圓七拾八錢七厘
 - 一 井堰守給料 同八百六拾七圓五拾三錢壹厘
 - 一 消防入費 同三百七拾貳圓拾三錢八厘六毛
 - 一 番人給料并諸費 同壹萬二千八百卅八圓六拾九錢二厘六毛
 - 一 時ノ鐘 同二拾五圓八拾一錢八厘七毛
 - 一 貧民教育費 同二百九拾一圓五拾七錢七厘貳毛
- 合計拾萬四千九百九拾貳圓六拾四錢五厘七毛

春日井郡 大區壹 小區拾八 村二百拾三

町 反別壹方三百七拾九町壹反貳畝十三步五厘內壹町七反九畝廿步不足

內 田六千七百六十六町四反貳畝拾四步貳厘

畑三千六百拾丁九反九步三厘

大繩反別千百八十八丁壹反七畝廿六步八厘

內 田百五十八丁八反三畝五步八厘

畑千貳十九丁三反四畝廿壹步

但元石高拾五万四千四百六拾貳石五斗六升六合

民費

- 一縣廳并倉庫等營繕費 金拾一圓五錢壹厘二毛
- 一懲役場囚獄舍營繕費 同二拾二圓拾錢二厘六毛
- 一道路堤防橋梁修繕費 同四千八百四拾七圓八十三錢八厘壹毛
- 一布告并布達類入費 同千九百八十一圓三拾七錢六厘六毛

一管内限達事ニ付調費

同六百五十九圓八拾三錢六厘六毛

一諸御用ニ付係屬ニ正副區戶長等出頭旅費

同九百六拾七圓八拾五錢九厘

一區振所諸費

同千八百卅五圓廿八錢二厘三七

一正副區戶長以下ノ給料

同二萬千二百七拾四圓拾二錢五厘五毛

一國幣社并縣社并村社營繕費

同六百廿五圓六拾三錢一厘

一祭典并遙拜式費

同千八百拾九圓四拾錢二厘四毛

一縣社并村社神官給料

同八百四十九圓二十一錢五厘五毛

一檢見下組及內見其外一切費

同千八百四十二圓五十錢九厘

一貢米金取集ヨリ納濟迄諸費并

同三千三百三十二圓十八錢四厘四毛

一山林調費

同五百十圓七十五錢七厘

一地券調費

同二萬五千三百九十七圓七十七錢五厘五毛

一戶籍調費

同六百六十三圓三十一錢七厘

一徵兵下調費

同四百十二圓八十一錢八厘四毛

一學校費 金四千五百九拾五圓六十二錢三厘
 一病院費 同千六十八圓九十九錢九厘二毛
 一道路掃除費 同七百四十三圓五十六錢六厘
 一用票水道費 同六千九百三拾二圓八拾二錢二厘
 一暴漲水防費 同三百七十六圓五拾二錢五厘二毛
 一井堰守給料 同九百九拾九圓五拾五錢七厘五毛
 一消防入費 同五百三拾一圓九錢一厘
 一番人給料并諸費 同二千六百三十八圓八十五錢四厘八毛
 一宿驛助鄉費 同百三十二圓五十錢三厘
 合計金七萬五千七十三圓六十二錢三厘八毛

丹羽 葉栗郡 大區一 小區拾貳 村百七十二

反別七千九百八十四丁五反四畝一步九厘

田貳千八百六十七丁五反三畝拾三步八厘

丙 畑五千百十七丁拾八步壹厘

大總反別七百五十二反一畝拾四步九厘 丙廿九步不足

田五拾四丁三反九畝廿三步五厘

畑六百九拾五丁八反廿二步四厘

但元石高九方二千貳百七拾石四斗五合一勺

民費

一縣廳并倉庫等營繕費 金六圓七拾三錢二厘七毛

一懲役場并獄舎營繕費 同拾三圓四拾六錢五厘九毛

一道路堤防橋梁修繕費 同千九百拾五圓九拾三錢三厘八毛

一布告并布達類入費 同七百四拾三圓六拾錢

一管内限邊事二付調費 同六千七百八拾貳圓四拾二錢五厘

一 諸御用ニ付縣廳ニ正副
區戶長等出頭旅費 同三百九十四圓

一 區披所諸費

一 正副區戶長以下ノ給料 同七千貳百三圓九十九錢三厘

一 國幣社并縣社鄉村社營造費 同九百卅八圓六十二錢

一 祭典并遙拜式費 同五百四十壹圓七十六錢四厘五毛

一 縣社鄉村社神宮給料 同百五十五圓

一 檢見下組及内見其外一切費 同八百七十七圓二十五錢

一 貢米金取集ヨリ納濟迄諸費并
貢米五里内運賃其外諸費共 同九百八十三圓二錢六厘

一 地券調費 同貳万四千五百七十圓卅七錢壹厘六毛

一 徵兵下調費 同五千九百八十六錢六厘

一 團校費 同三千三百九十五圓九十一錢八厘九毛

一 病院費 同五百四十二圓七十錢

一 用惡水道費 同五百四十七圓九十九錢一厘四毛

一 暴漲水防費 同百三圓四十九錢

一 消防入費 同七十三圓十七錢七厘二毛

一 番人給料并諸費 同四百二十九圓四十錢

合計金五万七千五百四十四圓五十五錢四厘四毛

中島郡 大區壹 小區十六 村百六十四

反別八千四百七十壹町六反九畝步五厘 丙貳町貳反五畝
廿六步不足

丙 田三千九百二十四丁三反三畝十九步五厘

畑四千五百四十五丁九畝十五步

大繩反別百卅三丁六畝廿六步

丙 田二十二丁二反六畝廿九步

畑百十丁七反九畝廿七步

但元石高十二万四千二百二十九石七斗四升五合

民費

- 一 縣廳并倉庫等營繕費 金九圓六錢四厘二毛
- 一 懲役場囚獄舍營繕費 同十八圓十二錢八厘五毛
- 一 道路堤防橋梁修繕費 同三千四百九十四圓七十六錢
- 一 布告并布達類入費 同二千百一十一圓七十七錢壹厘
- 一 管內限達事ニ付調費 同二百三圓五十錢
- 一 諸御用ニ付縣廳～正副區戶長等出頭旅費 同千八百九十五圓九厘
- 一 區振所諸費 同二百六十二圓二十壹錢九厘
- 一 正副區戶長以下ノ給料 同九千七百六十七圓
- 一 國幣社并縣社鄉村社營繕費 同四百五十五圓七十錢壹厘八毛
- 一 祭典并遙拜式費 同千百四十四圓八十壹錢壹厘
- 一 縣社鄉村社神官給料 同四百五十二圓八十七錢
- 一 檢見下組及內見其外一切費 同千七十壹圓五十錢

- 一 貢米金里集ヨリ納濟迄諸費并貢米取五內運賃其外諸費共 同二千五百七十六圓五十錢
- 一 山林調費 同百六十三圓
- 一 里程調費 同五十圓七十五錢
- 一 地券調費 同二萬六千百五十七圓八十八錢五厘三毛
- 一 戶籍調費 同四百二十七圓
- 一 徵兵下調費 同九百八十五圓
- 一 學校費 同四千九百八十壹圓十三錢三厘
- 一 病院費 同八百七十六圓七十九錢四厘
- 一 道路掃除費 同八十圓四十壹錢
- 一 用惡水道費 同千八百五十圓
- 一 暴漲水防費 同二百五十圓
- 一 井堰守給料 同三百三十圓
- 一 消防入費 同十九圓二十七錢九厘

一番人給料并諸費

金三百四十五圓九十四錢壹厘

合計金五萬九千九百七十六圓十貳錢六厘八毛

海西郡大區一

小區二十二

村二百六十六

反別一萬千六百五十六町七反九畝廿八步

丙十壹丁五反壹畝十八步不足

田八千五百五十二反八畝廿九步

丙畑三千四百九十四町九反九畝十一步

大繩反別千四百三十二町六反八畝四步

丙九十九丁八反九畝十八步不足

田六百九十七丁二及二畝廿一步

丙畑六百三十五丁五反五畝廿五步

但元石高十七万二千二百三十三斗三升七合

民費

一縣廳并倉庫等營繕費

金十壹圓六十六錢

一總役場囚獄舍營繕費

同二十三圓三十二錢四毛

一道路堤防橋梁修繕費

金八千二百二十二圓四十五錢三厘九毛

一布告并布達類入費

同四千三百五十一圓七十五錢一厘七毛

一管内限達事ニ付調費

同千一圓三十七錢五厘七毛

一諸御用ニ付縣廳へ正副區戶長等出頭旅費

同二千六百八十八圓八十六錢七厘五毛

一區級所諸費

同六百九十三圓四十六錢八毛

一正副區戶長以下ノ給料

同一万千二百四十四圓三十四錢三厘六毛

一國幣社并縣社鄉社社營繕費

同五百九十圓五十六錢五厘四毛

一祭典并遊拜式費

同千七百八十六圓五十九錢四厘七毛

一縣社鄉村社神官給料

同五百六十九圓十錢八厘一毛

一檢見下組及内見其外一切費

同二千五百七圓七十四錢五厘八毛

一貢米金取集ニリ納濟迄諸費并貢米五里内運賃其外諸費共

同千五百二十圓三厘三毛

一里程調費

同三十六圓六錢二厘

一地券調費

同三千四百六十一圓十九錢五厘一毛

一戶籍調費	金四百一圓八十七錢五厘四毛
一徵兵下調費	同三百七十四圓十九錢三厘三毛
一學校費	同三千百六十二圓五十錢
一教院費	同百二十圓五十六錢
一病院費	同千二百十五圓三十七錢五厘四毛
一道路掃除費	同百七十七圓四十七錢二厘七毛
一用惡水道費	同一万二千三百十三圓八十二錢四厘六毛
一暴風水防費	同二百二十九圓七十三錢
一井堰守給料	同七百六十三圓九十六錢九厘六毛
一消防入費	同百三十七圓八十四錢九厘五毛
一番人給料并諸費	同千六百二十七圓六十五錢三厘九毛
一雨乞費	同百八十八圓七錢二厘
合計金	八万八千八百六拾二圓五十七錢三厘四毛

七百十二

知多郡	大區壹	小區拾	村百四十八
反別七千九百八十九町四畝九步			
內 田四千八百七十七町壹反八畝廿一步			
畑三千百一十一町八反五畝十八步			
大繩反別八百五十町一反八畝十三步			
內 田三百七十五町七畝廿步			
畑四百七十五町壹反廿三步			
但元石高九万九千六百八拾壹石八斗七升三合			
民費			
一縣廳并倉庫等營繕費	金七圓二十七錢二厘九毛		
一懲役場囚獄舍營繕費	同十四圓六十四錢五厘九毛		
一道路堤防橋梁修繕費	同四千九百三十圓五十八錢六厘五毛		
一布告并布達類入費	同二千百二十圓六十一錢八厘六毛		

七百十二

- 一 管内限達事ニ付調費 金百四十一圓五十五錢一厘壹毛
- 一 諸御用ニ付縣廳ニ正副 同千六百三十圓八十三錢七毛
- 一 區戸長等出頭旅費 同九百廿七圓十八錢九厘一毛
- 一 區振所諸費 同六千三百六十七圓廿二錢九厘七毛
- 一 正副區戸長以下ノ給料 同五百三十五圓八十一錢四厘
- 一 國幣社并縣社并鄉村社營繕費 同千五百七十八圓六十四錢五厘三毛
- 一 祭典并遊拜式費 同三百四十六圓
- 一 縣社并鄉村社神官給料 同六百三十四圓九十八錢二厘三毛
- 一 檢見下組及内見其外一切費 同千八百九十一圓八十七錢六厘六毛
- 一 貢米金取集ニリ納濟迄諸費并 同七百七圓九十九錢二厘四毛
- 一 貢米五里内運賃其外諸費共 同百二圓三十六錢一厘一毛
- 一 山林調費 同二万八千二百九十五圓八十三錢四厘五毛
- 一 里程調費 同三百八十三圓七十錢二厘四毛
- 一 地券調費
- 一 戶籍調費

- 一 徵兵下調費 同七百十九圓九十二錢壹厘八毛
 - 一 學校費 同六千八百四十九圓六十四錢三厘
 - 一 教院費 同四圓八十二錢
 - 一 病院費 同七百六圓七十四錢四毛
 - 一 道路掃除費 同九十三圓七十八錢六厘三毛
 - 一 用惡水道費 同千八百四圓七十錢三厘七毛
 - 一 暴漲水防費 同六十三圓八錢二厘五毛
 - 一 井堰守給料 同九百五十二圓五錢二厘五毛
 - 一 番入給料并諸費 同六百二十七圓九厘七毛
- 合計金六萬二千四百三十八圓八十九錢三厘

加茂郡 大區一 小區七 村三百六十六
 反別六千三十七町三八八畝八步

內 田三千九百六十九町四反四畝廿六步
 畑二千六十七町九反三畝十二步
 大繩反別三十六町一反九畝七步
 內 田十五町三反五畝三步
 畑二十町八反四畝四步
 但元石高六萬七千五百三十七石九斗九升七合

民費

- 一 縣廳并倉庫營繕費 金四圓九十二錢七厘七毛
- 一 懲役場囚獄舍營繕費 同九圓八十五錢五厘六毛
- 一 道路堤防橋梁修繕費 同二千二百八十五圓六十二錢四厘七毛
- 一 布告并布達類入費 同二千三十七圓八十四錢八厘壹毛
- 一 管内限達事ニ付調費 同七十四圓十五錢六厘三毛
- 一 諸御用ニ付縣廳ニ正副區戶長等出頭旅費 同千六百六十四圓八十五錢六厘三毛

- 一 區級所諸費 同四百八十五圓二十六錢二厘四毛
- 一 正副區戶長以下ノ給料 同六千七百二十三圓五十三錢五厘
- 一 國幣社并縣社鄉村社營繕費 同百八十三圓五十二錢七厘
- 一 祭典并遙拜式費 同九百二十二圓三十錢五厘五毛
- 一 縣社鄉村社神官給料 同百九十四圓
- 一 檢見下組及內見其外一切費 同三百二十三圓五十四錢九厘五毛
- 一 貢米金取集ヨリ納濟送諸費并貢米五里內運賃其外諸費共 同九百八十三圓十六錢五厘五毛
- 一 地券調費 同壹萬五千三百七十二圓二十九錢六厘四毛
- 一 戶籍調費 同二千九圓三錢
- 一 徵兵下調費 同百四十四圓八十六錢七厘二毛
- 一 學校費 同千六百二十二圓三十錢四厘六毛
- 一 病院費 同四百七十六圓六十七錢二厘六毛
- 一 道路掃除費 同四十八圓十二錢九厘

- 一用惡水道費 金千三百八十三圓六十二錢四厘
- 一暴漲水防費 同百三十五圓五十四錢五厘六毛
- 一井堰守給料 同三十五圓五十錢
- 一消防入費 同七十五圓三十五錢二厘
- 一番入給料并諸費 同四百六十八圓七十八錢二厘二毛

合計金三万五千九百九十四圓七十一錢七厘二毛

碧海郡 町壹

大區壹

小區十

村百七十八

反別九千二百七十四町壹畝八步

內 田四千五百五十九丁九反六畝七步
畑四千七百十四丁五畝壹步

大繩反別九百四十六丁二反六步

內 田二百二十五町九反二畝二十九步
畑七百二十町二反七畝七步
但元石高九萬七千三百十壹石四合

民費

- 一縣廳并倉庫等營繕費 金七圓十錢二毛
- 一懲役場因獄舍營繕費 同十四圓二十錢四毛
- 一道路堤防橋梁修繕費 同七千五百五十一圓三錢八厘九毛
- 一布告并布達類入費 同二千八百七十二圓九十二錢一厘三毛
- 一管內限達事付調費 同二百三十七圓七十九錢九厘
- 一諸御用付縣廳正副區戶長等出頭旅費 同千七百八十圓四十七錢一厘五毛
- 一區振所諸費 同七百五十六圓十三錢七厘八毛
- 一正副區戶長以下之給料 同七千二百四十三圓三十五錢三厘七毛
- 一國幣社并縣社鄉村社營繕費 同四百九十四圓六十六錢二厘八毛

- 一 祭典并遙拜式費 金千二百六十五圓十三錢四厘五毛
- 一 縣社鄉村社神官給料 同三百四十四圓七十八錢二厘四毛
- 一 檢見下組及內見其外一切費 同二百二十二圓七十四錢五厘六毛
- 一 貢米金取柴ヨリ納濟迄諸費并貢米五里内運賃其外諸費共 同千六百六十圓八十五錢七厘六毛
- 一 山林調費 同百四十八圓四十七錢五厘
- 一 里程調費 同十三圓四十二錢六厘二毛
- 一 地券調費 同一万八千五百三十圓九十一錢九厘四毛
- 一 戶籍調費 同三百五十五圓九十一錢五厘五毛
- 一 徵兵下調費 同二百五十五圓九十一錢三厘二毛
- 一 學校費 同五千六百六十八圓四十四錢八厘七毛
- 一 病院費 同六百八十六圓八十錢六厘
- 一 道路掃除費 同百十二圓三十七錢四厘六毛
- 一 用惡水道費 同三千五百七十六圓八十四錢五厘

- 一 暴張水防費 同百十三圓貳拾九錢貳厘
 - 一 井堰守給料 同三百四十七圓四拾八錢六厘
 - 一 消防入費 同百圓三拾七錢
 - 一 番人給料并諸費 同五百拾四圓二拾八錢九厘七毛
 - 一 海岸修繕費 同六百九拾五圓
 - 一 官有地調費 同三十八圓十六錢四厘七毛
 - 一 旱魃ニ付用水溜池浚費 同五十九圓七十三錢貳厘
- 合計金五万五千六百六十八圓六十六錢三厘六毛

額田郡 大區壹 小區五 村百八十三 町三十貳

反別四千六百二十七町四反六畝十步
 田二千六百九十八町六反六步
 內 畑千九百二十八町八反六畝四步

大繩反別六十六町四反三畝十六步

內 田四十五町九反二畝二十四步
畑廿町五反廿二步

伍五石高五万二千五百五十二石壹斗二合

民費

- 一 縣廳并倉庫等營繕費 金三圓八拾三錢四厘六毛
- 一 懲役場囚獄舍營繕費 同七圓六拾六錢九厘二毛
- 一 道路堤防橋梁修繕費 同千九百十七圓八錢九厘八毛
- 一 布告并布達類入費 同五百廿圓八十二錢三厘
- 一 管内限邊事 = 付調費 同二百二十三圓九十二錢五毛
- 一 諸御用 = 付縣廳へ正副區戶長等出頭旅費 同千六百六十四圓九十一錢六厘三毛
- 一 區扱所諸費 同三百九十九圓四十三錢二厘四毛
- 一 正副區戶長以下ノ給料 同三千八百四十五圓七錢三厘八毛

一 鄉村社營繕費

同千九百十圓四十二錢四厘四毛

一 祭典并遙拜式費

同六十三圓四十九錢五厘六毛

一 縣社鄉村社神官給料

同九十八圓

一 地券調費

同八千七百三十圓三十六錢八厘

一 學校費

同千五百二十三圓六十五錢

一 病院費

同三百七十圓九十二錢五厘八毛

一 浴人給料并諸費

同八百十四圓七十五錢四厘

一 町村內諸費

同四千九百卅圓九十一錢六厘四毛

合計金二万七千二十一圓二十九錢三厘八毛

幡豆郡

大區一

小區七

村百八十四

町二十七

反別六千九百四十六町八反三畝廿七步

田三千四百七拾七町五反九畝廿八步
 內 畑三千四百六十九町二反三畝廿九步
 大繩反別九十町八反五畝十一步
 內 田廿二町八反六畝十八步
 畑六十七町九反八畝廿三步
 但元石高七万八千八百廿二石一斗八升七合

民費

- 一 縣廳并倉庫等營繕費 金五圓廿四錢四毛
- 一 懲役場囚獄舍營繕費 同十四圓四十八錢八毛
- 一 道路堤防橋梁修繕費 同五千八百六十一圓七十五錢六厘九毛
- 一 布告并布達類入費 同千三百七十圓九十一錢六厘七毛
- 一 管内限違事ニ付調費 同百卅六圓八十五錢三厘三毛
- 一 諸御用ニ付縣廳ニ正副區戶長等出頭旅費 同八百七十四圓五十八錢九厘九毛

- 一 區級所諸費 同七百圓八十五錢二厘八毛
- 一 正副區戶長以下ノ給料 同五千四百二十四圓二十八錢
- 一 國幣社并ニ縣社并鄉村社營繕費 同百五十三圓四十六錢七厘八毛
- 一 祭典并遙拜式費 同六百五十圓四拾九錢二厘三毛
- 一 縣社并鄉村社神官給料 同百二十九圓三拾三錢二厘
- 一 檢見下組及內見其外一切費 同百二十八圓拾錢五厘
- 一 貢米金取集ヨリ納濟迄諸費并貢米五町內運賃其外諸費共 同千三百九十九圓六拾一錢六毛
- 一 山林調費 同八十三圓二十二錢八厘
- 一 地券調費 同千七百六十八圓六十錢一厘三毛
- 一 戶籍調費 同二百六十二圓三十七錢九厘八毛
- 一 徵兵下調費 同百六十二圓四十七錢八厘五毛
- 一 學校費 同二千圓九錢七厘
- 一 病院費 同五百六圓九十錢九厘八毛

一 道路掃除費	金六十二圓八十二錢
一 用惡水道費	同四千五十六圓九十七錢五厘九毛
一 暴漲水防費	同二十圓四十錢
一 非堰守給料	同六百四十八圓十八錢五厘六毛
一 消防入費	同九十七圓二十四錢一厘
一 番人給料并諸費	同二百七十二圓七十二錢八厘二毛
一 海岸修繕費	同二百九十三圓五十三錢三厘六毛
一 國役金	同千七十七圓十四錢三厘六毛
合計金三萬七千五百五十八圓六十九錢九厘七毛	
寶飯郡	大區一 小區六 村百二十
反別五千九十八町九反四畝二十三歩	
田二千五百六十丁三反壹畝十三歩	
内 畑二千五百三十八町六反三畝十歩	

大繩反別七十四町一反二畝六歩
 内 田五町七反三畝二十五歩
 畑六十八町三反八畝十一歩
 但元石高五万八千四十一石九斗一升一合

民費

一 縣廳并倉庫等營繕費	金二十三圓四十二錢五厘七毛
一 懲役場囚獄舍營繕費	同六十八圓二十九錢七厘
一 道路堤防御梁修繕費	同千三百四十一圓九十五錢九厘
一 布告并布建類入費	同九百七十五圓二十一錢二厘二毛
一 諸御用ニ付縣廳ニ正副區戶長等出頭旅費	同千四十九圓四十四錢一厘
一 區振所諸費	同百九十六圓六十錢七厘四毛
一 正副區戶長以下ノ給料	同五千十二圓六十七錢九毛
一 國幣社并縣社鄉村社營繕費	同四百五十六圓四十一錢七厘五毛

- 一 祭典并遊拜式費 金六百四十七圓六十五錢六厘八毛
- 一 縣社鄉村社神官給料 同九十圓
- 一 檢見下組及内見其外一切費 同四十三圓七十三錢二厘六毛
- 一 貢米金取集ヨリ納濟遊諸費并貢米五里内運賃其外諸費共 同二千三十六圓三十九錢七厘三毛
- 一 山林調費 同百十七圓一錢二厘
- 一 里程調費 同廿圓二十六錢三厘
- 一 地券調費 同七千七百三十圓十錢四厘五毛
- 一 戶籍調費 同八十二圓二十六錢二厘一毛
- 一 徵兵下調費 同百七十三圓九十二錢五厘八毛
- 一 學校費 同千三百九十四圓九十錢四厘
- 一 病院費 同四百九圓六十五錢八毛
- 一 道路掃除費 同百十八圓二十二錢五厘一毛
- 一 用惡水道費 同九百八十三圓八十二錢七厘五毛

- 一 暴瀝水防費 同五十二圓五十一錢四厘
 - 一 井堰守給料 同四十五圓九十七錢五厘一毛
 - 一 消防入費 同三十圓九十四錢四厘
 - 一 番入給料并諸費 同二百六十五圓三十錢七厘
 - 一 揭示場并脚瀝修繕費 同百十六圓五十六錢九厘八毛
 - 一 各村會所附費 同三百三十四圓六十一錢七厘
 - 一 圖役金 同八百六十九圓五十錢二厘四毛
 - 一 官林守給料 同五圓
- 合計金二萬四千六百九十二圓四十二錢一厘五毛

設樂郡 大區一 小區三 村二百十九

反別二千七百七十九町四反三畝二十一歩

内 田千八百八十八反八畝三歩
畑千六百六十町五反五畝十八歩